

相国寺御用達

京名菓 雲龍

雲龍は、俵屋吉富の七代目店主が相国寺所蔵の「雲龍図」(狩野洞春筆)に感銘を受け、うねる雲間を飛翔する力強い龍の姿を表現し創作した一世の名菓です。

大粒の丹波大納言小豆をはじめ、吟味を重ねた最高級の素材を用い、現在も変わらず、熟練された職人の手で、一本一本丁寧に作りおとしています。

大切な方への心を込めた贈り物に、京名菓 雲龍をどうぞ...



京名菓 俵屋吉富

本店 京都市上京区室町通上立売上ル

電話 (075) 432-2211

烏丸店 京都市上京区烏丸通上立売上ル

電話 (075) 432-3101

寶閣 庵摩呢哆唎吽囉吒

焦面大鬼王

那摩阿彌陀佛

那摩阿彌陀佛

無廣博身如來

汝等鬼神衆

我今施汝供
此食遍十方
一切鬼神俱

圓明

令和元年 夏号(第二二二号)

太山相国寺
相国会本部

暑中お見舞い申し上げます

令和元年 盛夏

◆表紙写真

はつとう さんもんせ がきえ せ がきばた
「法堂 山門施餓鬼会 施餓鬼幡」

山門施餓鬼会では、法堂正面に七如来、焦面鬼大王の
名号の幡、その両端に招き幡と呼ばれる大幡が掲げ
られる。施餓鬼幡は施餓鬼会を行う合図であり、餓鬼
たちを呼び寄せる目印である。

撮影◎教学部



まるにくん
© 2019 相国寺

平成三十一年一月十五、十六日

相国寺派前管長 止々庵 梶谷宗忍老大師 大士忌



止々庵老大師頂相



焼香する有馬管長



法要後焼香する参列者



出頭する僧侶一同



方丈での出斎



法堂での行導

平成三十一年二月十六日

相国寺「観音懺法会」出仕法要

かんのせんぼうえ

(詳細は、本山だより45ページを参照)

「風雅と無常―修羅能の世界」

能『朝長』ともながに出演

於 横浜能楽堂

撮 影：神田佳明
画像提供：横浜能楽堂



「四方念仏」を唱え行導する



「散華」をしながら読経



僧侶退堂から「朝長」登場へと転換する演出



鼓鉦を奏でる「勧請」



能舞台上で諷経をする僧侶

目次

カラーグラビア◎相国寺派前管長 止々庵 梶谷宗忍老大師 大士忌

◎相国寺「観音懺法会」出仕法要 能「朝長」

御挨拶

「改元記念」ゆかりの宗教者思い出を語る

仏道定款

特別寄稿「続・テラワダの風」(前編)

特別寄稿「常光豆腐を煮る」

相国寺の庭園(第六回) 承天閣美術館中庭

蓮の花の如く

本山だより

坐禅会のご案内

教区だより

第七十五回「同宗連」研修会参加報告…参加報告者 第一教区 林光院副住職 澤 宗秀

教化活動委員会活動報告

相国寺史編纂室だより

相国寺 秋の特別拝観

承天閣だより「言祝ぎの美——寺宝でつづる吉祥」

宝物拝見「後小松天皇宸翰 叢林秘事」

心のすがた

1

4

8

14

18

22

28

32

37

44

57

60

68

77

83

96

97

98

100



U R L <http://www.shokoku-ji.jp>
E-mail kyogaku@shokoku-ji.jp (教学部)



本誌『円明』のバックナンバーについて、平成20年夏発行の第90号以降は、相国寺派ホームページ内でご覧いただくことが出来ます。



相国会総裁

有 馬 頼 底

副総裁

佐 分 宗 順

会 長

片 岡 匡 三

本部長

矢 野 謙 堂

令和元年 盛夏

内 局

管 理 長

有 馬

頼 底

宗 務 長

豊 光 寺 住 職

佐 分 宗 順

教 学 部 長

大 光 明 寺 住 職

矢 野 謙 堂

法 務 部 長

普 廣 院 住 職

山 木 雅 晶

財 務 部 長

豊 光 寺 副 住 職

佐 分 昭 文

参 務 長

光 照 寺 住 職

荒 木 文 紹

教 学 部 員

長 得 院 副 住 職

有 浦 宗 健

承 天 閣 美 術 館 館 長

養 源 院 住 職

平 塚 景 堂

同 事 務 局 長

長 栄 寺 住 職

鈴 木 景 雲

同 参 事

養 源 院 副 住 職

平 塚 景 山

同 参 事

林 光 院 住 職

澤 宗 泰

同 執 事

是 心 寺 住 職

和 田 賢 明

慈 照 寺 執 事
(執 事 長 代 行)

慈 照 院 副 住 職 久 山 哲 永

同 執 事

眞 如 寺 住 職 江 上 正 道

宗 務 会 議 員

第 一 教 区 慈 照 院 住 職 久 山 隆 昭

第 二 教 区 竹 林 寺 住 職 牛 江 宗 道

第 三 教 区 見 性 寺 住 職 梶 谷 承 忍

第 四 教 区 善 應 寺 住 職 五 十 嵐 祖 傳

第 五 教 区 眞 乗 寺 住 職 木 下 雅 教

第 六 教 区 本 誓 寺 住 職 延 本 輝 典

第 七 教 区 感 應 寺 閑 栖 芝 原 一 三

宗 務 支 所 正 副 長

第 一 教 区 林 光 院 住 職 (正) 澤 宗 泰

第 二 教 区 大 光 明 寺 住 職 (副) 矢 野 謙 堂

第 三 教 区 竹 林 寺 住 職 (正) 牛 江 宗 道

第 四 教 区 眞 乗 寺 住 職 (正) 木 下 雅 教

第 五 教 区 圓 福 寺 住 職 (副) 田 中 太 眞

第 六 教 区 本 誓 寺 住 職 (正) 延 本 輝 典

第 七 教 区 感 應 寺 閑 栖 (正) 芝 原 一 三



本派寺院、相国会、檀信徒の皆様、暑中お見舞い申し上げます。

本年は一月十六日に前管長、止々庵老大師（大拙和尚）の大士忌（二十五回忌）法要を相国寺本山において厳修し、先師の遺徳を偲びました。又相国寺僧堂において四月十六日、大用国師（誠拙周楞禪師）の二百年遠諱と併せて止々庵老大師（大拙和尚）の大士忌（二十五回忌）及び前僧堂師家（拈華室老大師芳洲和尚）の称名忌（十三回忌）法要が、大通会を挙

げて盛大に営まれました。大用国師は相国寺大智院に僧堂が建立された時の初代師家となられた方で、現在の相国寺僧堂である大通院の前身であります。又大用国師は鎌倉の円覚寺の中興開山であることから円覚寺においても国師二百年遠諱が催され、有馬管長とともに参列することができました。

二月十六日には横浜能楽堂において、人間国宝の観世流梅若実師によって演じられた朝長（懺法）の舞台の中で、相国寺の観音懺法会の一部を厳修することになり、多くの観客に大変好評を博し、相国寺の観音懺法会が多くの人に紹介できたことは大変有意義なことでありました。

一方、相国寺史編纂室において続けて参りました寺史編纂作業もようやく『中世編』の一冊目が四月二十二日に出版

されました。続けて、『中世編』二、三巻、『近現代編』一巻及び『通史』一巻が順次刊行される予定です。すでに本派寺院には配布いたしましたので大いにご利用いただきたいと思います。

尚、長年の懸案事項でありました相国寺規則ほか関連の鹿苑寺、慈照寺の規則変更は、一月三十日に京都府庁より認証書の交付を受け、二月一日無事法務局への登記を済ませ、登記完了届けを京都府庁に提出し、全ての手続きが完了いたしましたことをご報告できことは大変喜ばしいことです。続いて「僧侶職員の執務及び倫理に関する規程」、「承天閣美術館規則」の変更、及び「教化活動委員会」の規則改正も施行することができ、時代に即した諸規則の改正が実現したことで、これからの相国寺の発展の土台ができてあ

がりました。

この改正に伴い、相国寺執事長として慈照寺住職を拝命いたしました。前住職有馬頼底管長の後を引き継ぎ次世代へと引き継ぎが出来るよう、来年四月までの残任期間ではありますが、誠心誠意務めたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

京都仏教会との共同作業として、三月八日、京都仏教会、宗教と社会研究実践センターの内部研修を行い、京都仏教会事務局長長沢香静師をはじめ、京都仏教会顧問の先生方、洗建氏、田中治氏、櫻井圀郎氏とともに大和総研、大和証券の方々を招き、寺院とキャッシュレス決済の現状と是非について協議いたしました。

日本政府は二〇二五年までに、キャッシュレス比率を四十

パーセントまで引きあげる計画であることから、さまざまな業者から寺院関係にもキャッシュレス決済の導入を迫ってきています。もちろんキャッシュレス化による利点があることは確かで、時代の流れはキャッシュレスに向かっていることは否定できません。しかし、寺院をはじめ宗教団体が無批判にこれを受け入れることは大きく分けて二つの理由から厳に慎むべきであり、慎重に検討しなければなりません。

一つ目の懸念は、商行為と宗教行為の区別が曖昧になり、聖俗の分離という基本原則が崩れ、宗教の尊厳を毀損^{きそん}することにつながります。

二つ目の危惧は、お金の流れとともに個人情報ビッグデータとして一部の業者に独占され、商業利用されたり、個人の信仰情報が流出したりするという危険をはらんでいる

ことです。現に中国では、宗教団体と個人の関係が国家によって把握され、宗教団体が弾圧を受けるといったことが起きています。

私たちは布施の原点に還り、慎重な対応が必要です。これからの緊急課題としてこの問題を取り上げ、研修会を開き、研鑽して参りたいと思います。

暑い夏に向かいます。皆様におかれましてはどうぞご自愛いただき、元気で猛暑を乗り切ってください、引き続き相国寺派の発展の為にご尽力いただきますようお願い申し上げます。

「改元記念」 ゆかりの宗教者 思い出を語る

(中外日報 平成31年3月29付掲載)

学習院ご学友に選ばれ

臨濟宗相国寺派管長 有馬頼底氏

今上天皇陛下との思い出は戦前、華族幼稚園の頃にさかのぼります。陛下が学習院初等科に進まれる時にご学友になるようにと同年齢の8人が選ばれ、東宮御所に遊びに行ったのが始まりです。銃を持った警護2人に付き添われ、三輪車に乗って初対面の我々に近づいてくれました。恥ずかしげな表情で、おとなしい方という印象でしたね。

学習院初等科では戦争中で警戒が厳しかったのでしょいか、自動車で登校して3〜4時限で下校され、お姿を拝見するだけでした。私も8歳で大分日田の岳林寺に入り、小僧、雲水の修行生活でご縁がなく、再びお会いしたのは京都・泉涌寺へ歴代天皇のお墓参りに来られた折です。

個人的に忘れられないのは2005年秋、天覧競馬となった天皇賞で皇后陛下と一緒に府中の東京競馬場にお見えになった時のことです。「なぜここにいるの」と驚かれ、「有馬記念(親戚の有馬頼寧にちなむ)の縁で招待されました」とお答えしたのですが、相国寺が明治天皇に献上した伊藤若冲の動植彩絵の120年ぶり一時里帰りを宮内庁に交渉していたところだったので、そのことも申し上げました。まもなく宮内庁の許可が下り、翌々年5月に承天閣美術館の若冲展が実現したので、思い出深いですね。

陛下は03年に前立腺がんの手術を受けられたが、それを乗り越えてご公務に取り組んでこられました。太平洋戦争の激戦地・沖縄の人々に心を寄せて皇太子時代や即位後も訪問され、東日本大震災をはじめ様々な災害では被災地に足を運ばれ、被災者と同じ目線でお見舞いされた。

象徴天皇制における天皇の役割を深くお考えになり、誠実にそれを果たそうとされてきたのでしょう。自然と頭が下がる思いです。京都にも迎賓館があるのでご退位後は、一年の半分は京都でごゆっくりされては、お勧めしたいところです。

陛下は魚類の研究家で、学者肌の方でいらっしゃいますが、皇太子殿下も非常に頭の良い方ですね。その印象を強くしたのは昨年9月、相国寺も協力した日仏友好

160年記念の「ジャポニズム2018」でパリを訪問され、マクロン大統領の招待宴で挨拶された時です。最初は日本語でしたが、途中でフランス語に切り替えて話されました。裏千家が設けた茶室では「お運び」の女性一人一人に丁寧な声をかけておられたのはお人柄を感じましたね。

ご即位後は今上天皇陛下が歩んでこられた、日本国民統合の象徴としての道を歩み続けられることでしょう。国民の一人として、そのことを強く期待しております。

(聞き手＝津村恵史)

今日、皇陛下との思い出を語り、皇陛下の御即位を祝う。皇陛下の御即位は、日本国民統合の象徴としての道を歩み続けられることでしょう。国民の一人として、そのことを強く期待しております。

臨濟宗相国寺派管長 有馬頼底氏

学習院ご学友に選ばれ



皇陛下の御即位を祝う。皇陛下の御即位は、日本国民統合の象徴としての道を歩み続けられることでしょう。国民の一人として、そのことを強く期待しております。

皇陛下の御即位は、日本国民統合の象徴としての道を歩み続けられることでしょう。国民の一人として、そのことを強く期待しております。

「令和を迎えて」

有馬頼底

新しい元号が「令和」と定まりました。この令和という文字の由来について、東京大学教授の品田悦一氏が以下の如く解説されています。『令和の本当の意味は安倍政権への強烈な皮肉であり、原典である万葉集の解釈を踏まえると、令和には権力者の横暴を許せないし、忘れることもできないという意味になる。恐らく政府関係者には思いもよらなかったメッセージが読み解けてきます。』

日本政府の説明では天平二年正月十三日、大宰府の長官だった大伴旅人が宴を催し、集まった役人たちがその時詠んだ短歌をまとめると共に、漢文の序を付したものに「千時初春令月、氣淑風和」の句が確かにあり、まさにそれが「折しも、正月の佳い月であり、氣候も清々しく風は穏やかだ」ということでした。

しかし、品田氏は『千時初春令月、氣淑風和』の部分についての解説はこれであり、としながらも、万葉集の中のこの句の前後をよく読むことにより、当時藤原一族により一時不遇にさらされ、都より大宰府へ左遷せられた大伴旅人の権力者への、嫌悪と敵愾心^{てきがいらん}が潜められていると解説しています。

さて、皆さんはどう思われますか、新しい御代のもと益々高齢化する社会において、我々は常に物事の本質を見極めながら前にすすんでいかねばなりません。*「照顧脚下」私は今改めてこの句を胸に、皆様方と共に参ろうと存じます。

*照顧脚下^{しやうごうか}..足元をよく見よの意。日常の一挙手一投足をしつかりせよ。

仏道定款

大通院
相国寺専門道場師家

小林玄徳

佛道定款

—YOUR GUIDE FOR
DEATH EDUCATION—

第十条 蜘蛛の糸考

I 人間の一生は、蜘蛛の糸を攀じ登る韃陀多の様なもの。地獄の罪人が次々と糸にぶら下がっていけば、糸の耐久性の限度を越えて必ず糸は切れる運命。

そして、いつ糸が切れてしまうのか、韃陀多には分からないのである。糸を登る韃陀多とは、私達一人一人のことに他ならない。自分の糸はいつ切れるのか？

因みに韃陀多は「こら、罪人ども。この蜘蛛の糸は己のものだぞ。お前たちは一体誰に尋いて、登って来た。下りろ。下りろ。」と喚いたのが無明というものである。

「自分ばかり地獄からぬけ出そうとする韃陀多の無慈悲な心」を抱けば「その心、相当な罰を受けて、元の地獄へ落ちてしまった。」訳である。因果応報の理。

私達一人一人は韃陀多と同じ蜘蛛の糸を登る人間ですから、仏の智慧を実践して『地獄の罪人の全員が極楽に到れる様に！』との大慈悲心を発願してもらいたい。

II 更に考察を深めましょう。慈悲心の実践とは、どういう事でしょうか。簡単な事です。自分が握り締めている蜘蛛の糸を、自分の方から手放せばよいのです。

「あつと云う間もなく風を切って、独楽のようにくるくるまわりながら、見る見る中に暗の底へまっさかさまに落ちてしまいました」

このとおり。韃陀多自らの体重の重み^ゝが一人分軽くなればその分一人の罪人が糸を登っていけるのです。地獄に落ちた韃陀多のなすべき仕事は決っています。

順番に一人ずつ糸を登らせて、極楽に到ったら、次の者を登らせ、順序よく皆が極楽へ到着できる事を教える。順番を争う者には逸る心を癒し落着かせてやること。

地獄の罪人が全員極楽に登り終えて、最後の一人である私達自身の一人一人の鍵陀多が蜘蛛の糸を登っていかうかと、糸に手を掛けたその瞬間に気付くことでしょう。

実は、鍵陀多である私達一人一人が、自分の握る蜘蛛の糸を手放した刹那、既に天地は逆転し、極楽の蓮の花弁の中へ抱き込まれていたことを！

「仏心」 慈悲心・平等心・不殺生戒

「公案」 大死一番・絶後蘇生・因果応報

大死一番・見性成仏の真骨頂の醍醐味がここにある訳である。本則で分かり易く示してあるので、ここでは、蜘蛛の糸の公案を提して読者の参禅勉道に資したいと思う。

Ⅲ

一、自分の握り締めている蜘蛛の糸を手放してみよ

二、地獄に落ちる途中は如何

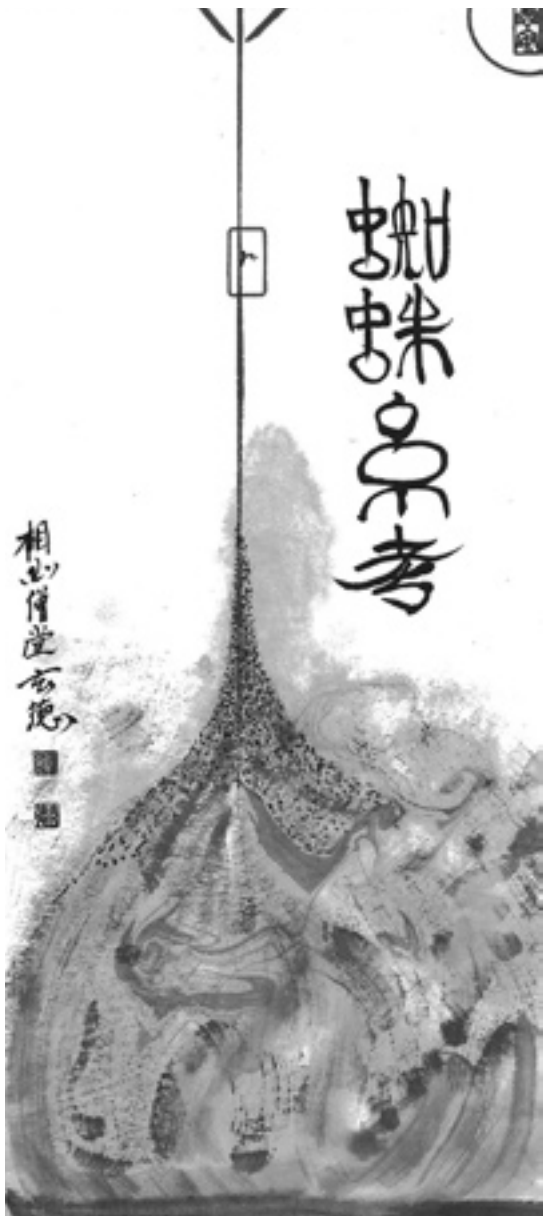
三、地獄に落ちた瞬間は如何

四、地獄の罪人を済度してみよ

五、地獄から出てみせよ

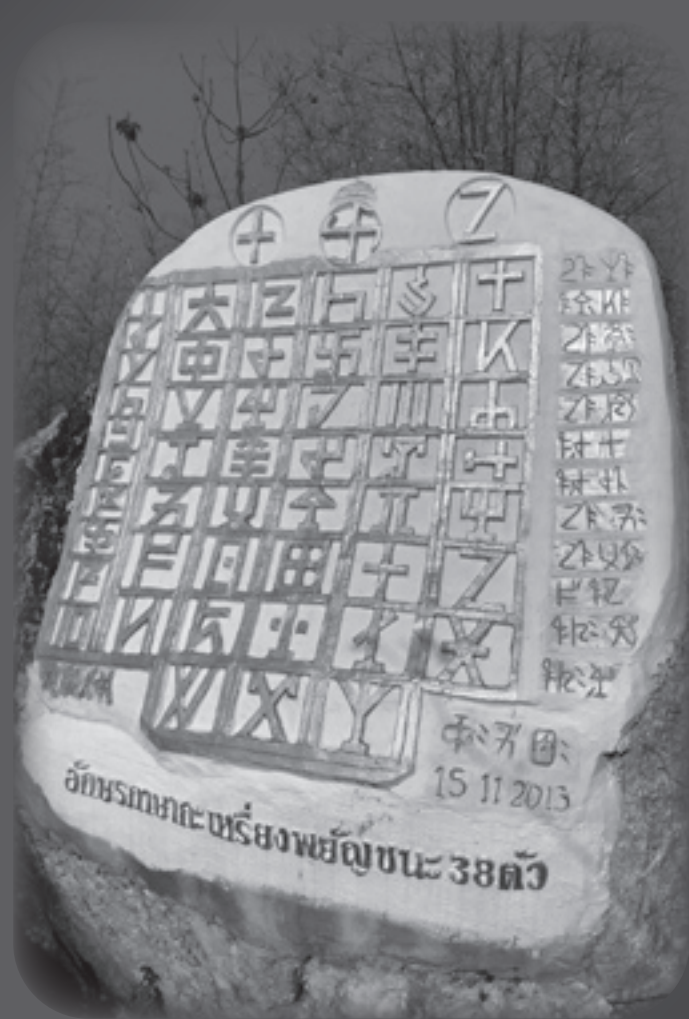
六、真実閻魔大王を説き伏せてみよ

(角川文庫「蜘蛛の糸」より一部引用)



続・テラワードの風〈前編〉

第四教区 潮音院住職 鈴木元浩



新元号は「令和」。これで私も三つの元号を跨いだことになりますが、以前の元号の時代背景を少し考えてみます。昭和は先の大戦より国民が艱難辛苦を舐め、復興と高度経済成長を遂げた時代。平成になるとインターネットの普及により、便利ではあるが人々がその急激な情報社会化や経済成長についていくことが難しい、心の飽和状態となったような時代だったように感じられます。そして令和となりましたが、いったいどの様な時代になるのでしょうか。漢字の意味を調べますと、令はみことのり。和は協調、やまと。いま一度、忘れかけた日本の心を見直し、その情のある規律によって人々が和合しているという意味合いが込められているのではないのでしょうか。

タイのダモ寺も今回で三回目となりますが、三月末だったので、私にとって平成最後の研修となりました。研修はいつもテーマを決めています。一回目は日本とタイの仏教がどう違うのか。二回目は雲水時代の衣で向こうの生活を自らが体験し、托鉢で現地の人から少しでも施しを受けることができるのか。三回目は、我々臨済宗の宗旨である禅問答、公案をもって、向こうの生活に合わせながらどこまで練ることができるのかという、それぞれのテーマでした。一、二回目の顛末は「圓明」平成二十九年夏号（第一〇八号）と三十年冬号（第一〇九号）にて記載させていただいているのでご参考いただければと思います。

この研修の始まりは、花園大学教授の佐々木閑先生と、ダモ寺の落合尊師のご縁によるものですが、前回からは私の友人である曹洞宗の山崎禅師も参加いただきました。そして今回は特に、彼と二人で助け合いながらの研修となりました。三回目となるともうここで

の生活は慣れたものだとお考えの方もいらっしゃると思いますが、まったくその逆。なぜなら落合尊師の厳しいご指導。禅僧ならば多少過酷な環境でも大丈夫だというお考えにより、次々と他では考えられないハードなミッションを毎回課せられていくのです。

まずチェンマイからダモ寺への移動中に渡されたスケジュール表。一般の方々も何人か参加していましたが、表には明らかに私たち二人だけ違うスケジュールが書かれています。住むところはクティと呼ばれる比丘(お坊さん本来の名称)専用の住居。托鉢、瞑想などは当然なのですが、何よりも驚いたのは、最終日にダモ山泊と書かれていたことでした。ダモ山がどうい

うところなのか、後ほどご説明しますが、とんでもない山で、とにかくこの文字をみて二人が青ざめたことは間違いありません。横で私たちの凍り付いた顔を見ていた落合尊師と佐々木先生だけはニヤニヤしていたのを今でもはっきりと覚えていますが。

さて、約三時間かけてダモ寺へ到着。荷物をそれぞれのクティへ。私が案内された場所は、天然の岩を礎に改築された建物でした。このような素敵なお店で生活できるとは光栄だと思っていた矢先に、ここでも悲惨な情報を伝えられるのです。なんとコブラが出ると。以前ここに住んでいた奥田比丘という方によると、ある日しっぽが見えたので猫が部屋へ遊びにきたのだと思い近づいてみたところ、それは



落合尊師(右)と佐々木先生(左)



最後の托鉢 手前が山崎禅師



布薩(懺悔)する比丘

わずか一か月ほど前。入居当日は恐怖で全く眠れませんでした。そしてその二日後。托鉢が終わり部屋で休んでいると、なんと入口の扉からしっぽのようなものが見えたのです。戦慄が走り、これはもう飛行機の往復切符は使えないだろうと覚悟しました。恐る恐る近づいてみると、それはかわいらしい猫のほうでした。のちに山崎師によると、屋外のトイレではサソリがウロウロして満足に用も足せなかったそうです。これも恐怖に打ち勝ち、平常心を保つための落合尊師なりの修行なのか解りませんが、そのような状況の中、研修は続いていきます。

続きは次号にて。

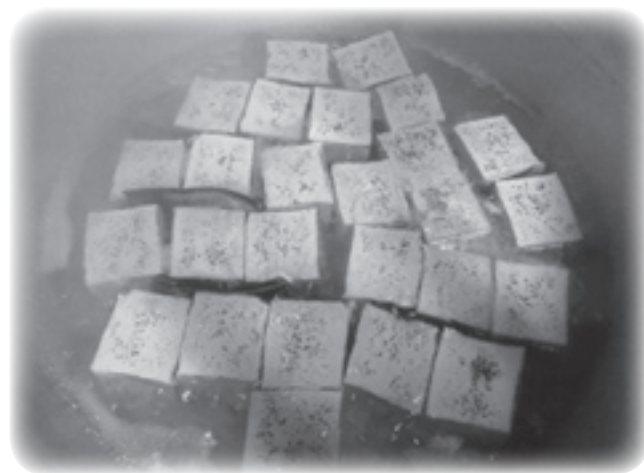
しっぽではなくコブラだったそうです。そして気づいた瞬間には片目に毒をかけられたそうです。すぐに治療して大事には至らなかったものの、もう少しで隻眼の比丘となるとろだったから気を付けてくださいと、何食わぬ顔で私に忠告してきたのでした。サソリや得体の知れない毒虫などは私も何回か出くわしましたが、コブラは別次元の恐ろしさ。タイは雨季と乾季に分かれていて、乾季になると気温は三八度ほどになります。この天然の涼しい岩屋のクティは、日中人間には過ごしやすいのですが、ほかの生き物にとっても最適。コブラもそのうちの一匹ということです。そしてその事件があったのは忠告を受けた日から



クティの外観

「常光豆腐を煮る」

上田 幸男



大鍋で煮られる「常光豆腐」

和尚様より、法要の際にお出しする「常光豆腐」を煮るようにと申された時、私は直感的に「これはじっくりゆっくりと煮ることが大切だ」と思いました。

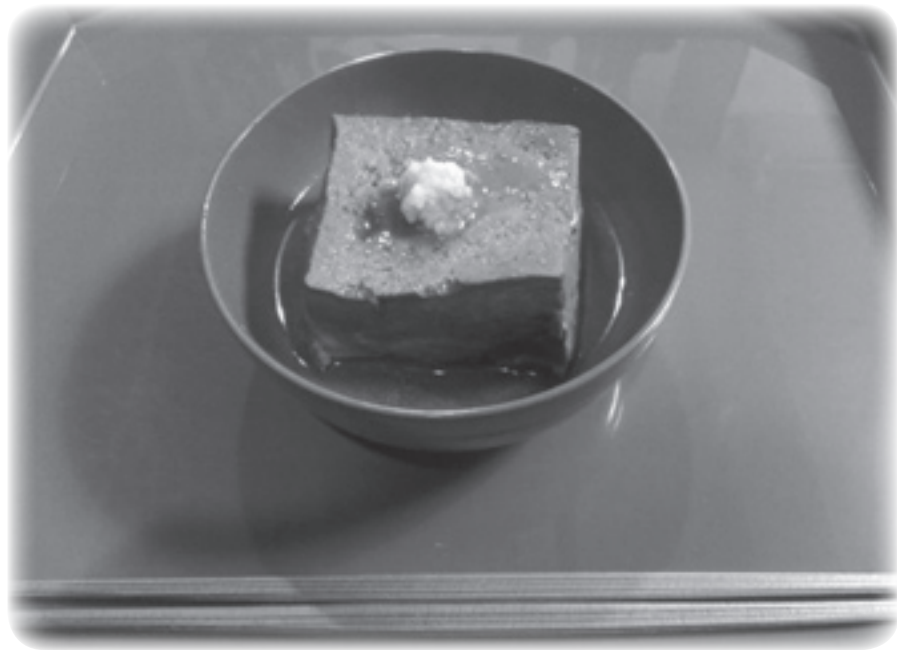
調理の五法（煮る、焼く、蒸す、揚げる、生）の内、精進料理で大きな比重を占めるのが、ここでの「煮る」であります。

「常光豆腐」の素材は、「焼き豆腐」であります。ご家庭で調理される場合は、皆様が目頃おいしいな、と思うお店で「焼き豆腐」を選んで下さい。ただ、この料理は長時間煮ますので、ここでは煮崩れて形がなくなってしまう品は避けると良いと思います。

購入した焼き豆腐を、約三十分間まな板に置き、余分な水分をとります。次に煮ていくのですが、この場合昆布をはじめから加えておくのが一つの方法です。煮はじめて、時をみて取り去ります。

昆布出汁の味は、「常光豆腐」を煮る要点です。ここでは、利尻昆布が合うと思います。濃い味、濁らなく澄んでいる、そして持味の辛口が合うと思います。

出汁の量は、焼き豆腐に出汁がかぶっているのを目安とします。煮る時間が長くなるに従って出汁が減ってきますので、その都度別に作っておいた出汁を補っていきます。



平椀に盛り付けられた「常光豆腐」

そして、頃合いを見て赤味噌を溶き入れます。ほんの少量です。ここが重要なのですが、素材を生かすには、はじめは薄味を保ちながら煮ていき、その後、段々と味噌を溶き加えていくのです。また、その時々微妙な味の変化を覚えておいて、決して、煮詰まったような味にならないように注意し、一夜を鍋のまま過ごさせます。

翌朝より昼食用として、コトコトと再度煮はじめます。強い火力にしますといわゆる「スグ」が入って味が落ち、又煮崩れもありますので、火加減が重要です。お出しする前に試食をして、摺り生姜の量と、焼き豆腐の味噌味のバランス、そして味噌出汁の量をしっかりと見るようにします。

先にも書きましたが、「常光豆腐」を煮るにあたり、最も大切だと思うのは「出汁味」だと思います。

豆腐にはもちろん味がありますが、それは淡白な味と申せましょう。そこを、何とかして満足な味にしようとする。それは、素晴らしい昆布の出汁があるからであります。そして、手間ひまをかけて味を調える、精進料理の調理見本を「常光豆腐」から教えていただいたように思います。

(精進料理 上^{うえ}幸^{こう})



●常光豆腐の由来

大光明寺住職 矢野 謙堂

大光明寺では毎年二月十九日、相国寺第三世空谷明応禪師(常光国師)の毎歳忌の法要(常光忌)が厳修されている。明治三十九年、当時の中原東嶽管長により、荒廃していた国師の塔所であった常徳院と、西笑承兌開山の心華院、そして大光明寺の三ヶ寺を一つに統合し、寺域、建物は心華院を残し、寺名は大光明寺として再興された。国師の塔所も寺域内に移され、以来常徳派の本庵として現在に至っている。

この常光忌の際、お斎に「常光豆腐」が供され、大光明寺の名物料理となっている。寺の言い伝えによると、大変高德であられた常光国師には多くの信者があり、その方々が当時は貴重品であった豆腐を供養された。しかし量が多いので何か良い保存方法はないものかと思案された結果、豆腐を味噌で煮込むことを考え付かれた。実際作ってみると豆腐は通常より長持ちし、しかも日をおうごとに味噌味が染みて、段々美味しくなっていた。以来寺ではいつの頃からか、常光忌の時に国師の徳を偲んで、この常光豆腐を出すことになった。

平成二十四年に百一歳で亡くなられた山崎承真尼は、常光豆腐を作る名人であり、今でもその味が忘れられない。現在私は毎春お彼岸の時に左京区静原講中の檀家さん約二十名に、この豆腐を作ってお出ししているが、まだまだ山崎さんには及ばない。

二月の常光忌の時は、相国寺用達会の精進料理「上幸」主人上田幸男氏に調理をお願いしている。こちらの方は味、出来栄とも申し分なく、法要にご出頭された御寺院方、総代さんに大変喜ばれている。

味を守り受け継いでいくことは、味だけに限らずそこに様々な教えが含まれている。常光忌や彼岸講などたとえ年に一回であっても、お参りの方々に出席をさせて頂いているということは、無上の法悦であり、有難いことである。

相国寺の庭園

第六回

承天閣美術館中庭

植昭 長岡造園 長岡 秀晃

今回は、承天閣美術館の中庭についてお話させていただきます。この庭は、大本山相国寺山内に数ある庭園の中でも一風変わった庭園となっています。一見、景石と白砂の波紋で出来たオーソドックスな枯山水形式の庭ですが、よく見てみると素材に変化をつけてあり、モダンな仕上がりになっています。

本来、白砂の波紋というのは平らに均した砂利に砂紋引きで引いて描くものですが、この庭園ではその白砂を固めていきます。固めて凹凸をわかりやすくすること、波模様をよりはっきりと見せていきます。そのことにより、庭園内に据え付けてある小さな景石



松風への航海

たちが、はっきりと出た波模様と相まって本来より大きい物であるかのよう主張してくれています。

この庭園の見所は、固まる特性を持った資材を使用し、現代的な手法で作庭した庭であること以外にもう一つあります。それはこの庭園が物語仕立てになっているということです。「人の一生」という壮大なテーマを、水の流れを表す白砂や、人生における様々なこと・ものに見立てた石材で表現しているのです。

この庭園は建物の間を縫うように出来ており、L字型の形状をしています。北側の井戸組を水源（誕生）とし、狭い川の流れ（幼少期）を経て、世の中という大海に流れ込み、航海に繰り出すという物語になっています。L字の



誕生～幼少期

折れる場所には、複数の粉ひき石を使った陸地が造ってあります。これは幼少期を経て、社会という大海に出航するための港を表しています。多くの人にとって、社会に出るというのは人生のターニングポイント、曲がり角となりますので港を配しています。

その先は複数の真黒石で様々な物を表現しています。まず一つ目は旅路に出る船を、二つ目（二個組）は寄り添う夫婦の様子を、そして三つ目の中心の石は己の現在の立ち位置を表しています。大きな世界において、己という存在を過信せず、驕らないための「自己への戒め」という意味も込めて最も小さい景石を配置しています。

その後、各々の人生の航海におけるイベントを表した石を経て、最終的に



深い凹凸の波紋

「蓮の花の如く」

演劇塾 長田学舎 斉藤維明

松風（千利休の墓石を模した石造品）で表した極楽にたどり着きます。また、景石は松風に向かって徐々に角の取れた丸い石となっていくます。人は年齢を重ねると角が取れて丸くなる、その様を表しています。

この庭園において植物は、シダが一株、松風の足元にあるだけです。極限まで植物を減らすことで一株のシダが存在感を主張し、シンブルながらも石だけの庭で極楽を表す良いアクセントになっています。

皆さんがこの庭園をご覧になられる際は、自分を航海の主役とし、人生を振り返りながら拝観していただけたら幸いです。



作庭風景

おさだ塾への帰り道、久し振りに相国寺さんの南総門を潜りました。入ってすぐ左の「境内全景」の図が新しくきれいになっていて、暫くの間見惚れてしまいました。その奥の池の端には、沢山の大きな甕が整然と並び、その内に清冷な緑の蓮の葉が浮いていました。夏の盛りには、いろいろな種類の蓮に、白、赤、薄紅色などの清楚な花が咲き誇るのだらうと思うと、ちょっと嬉しい気持ちになります。

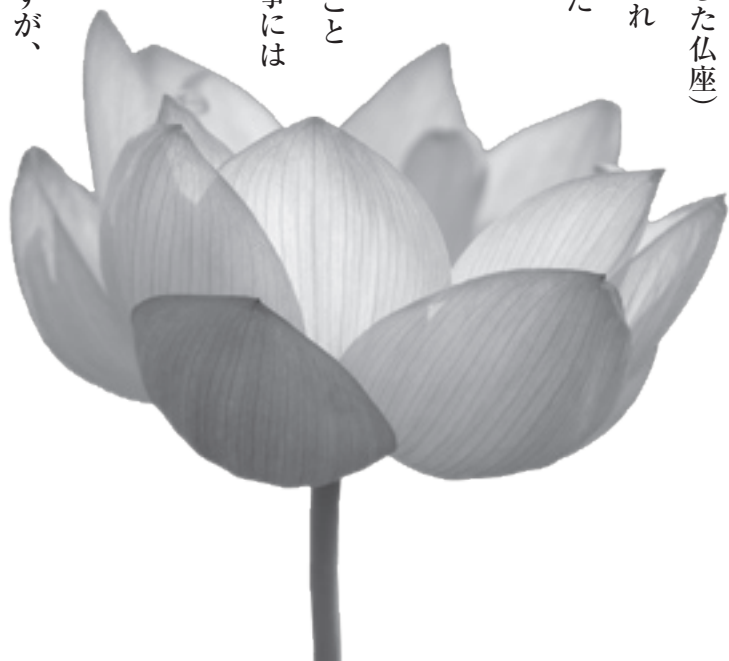
蓮は、仏教と深い縁ゆかりのある植物です。その関りをいくつか取りあげてみます。

先ず仏像ですが、立像、座像を問わず、蓮の花を模した蓮華座に鎮座しています。又、観音像に見られるように、手に蓮の花を掲げている姿の仏像は少なくありません。身近な処では、仏壇の中の位牌の多くも蓮華の台座です。

寺院の本尊を安置する須弥壇しゅみだん（仏教の世界観を表わす須弥山しゅみせんと云う世界の中心を成す高い山を模した仏座）の前の大きな机には、香炉、燭台、花瓶が置かれています。その花瓶には、木製の金箔を貼った蓮花が飾られています。

私の生家は、北海道の北部、宗谷地方の山村の曹洞宗のお寺です。子供の頃ですが、本堂でこの木蓮花を抜いて遊び、破損させたことがあります。当然、父親に大目玉を喰らう事にはなつたのですが、随分罰当りなことをしたと思います。しかし、今となつては、それも懐かしい思い出の一つと言えるのですが。

更に、極楽の絵にも蓮の花が描かれています。蓮の持つ特徴が、真の信心を持った人の心の有様を表わしているからと言われています。



その蓮の特性をいくつかあげてみますと、先ずその一つは、池や沼の泥の中に育って、その汚れに染まらず美しい花を咲かせると云うことです。



二つ目は、一つの茎に一輪だけの花しか咲かないことです。

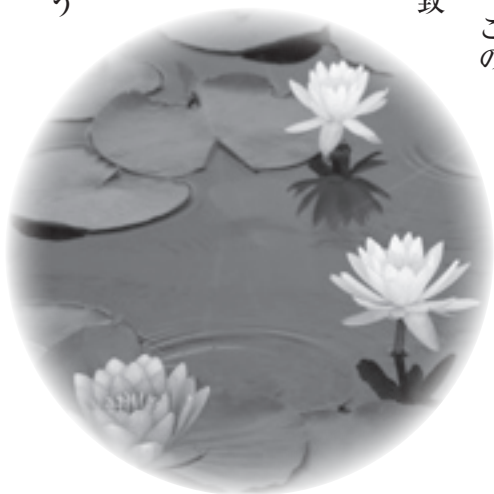
三つ目は、蓮の花は一度に咲き開き、それと同時に実を付けることです。

四つ目が、一輪の花に沢山の実を付けることです。

五つ目は、茎の中は空洞になっていながら、外側は真直ぐ伸びていることです。

他にも、蓮の種は腐らず、保存状態が良ければ長い時間が経っていても発芽すると言われています。この

様な蓮の特徴が、正しい信心の心構えに合致すると云うことなのでしょう。特に、泥の中に育ち乍ら、その汚れにも染まらず美しい花を咲かせ、清々しい緑の葉を広げる姿が、俗世の垢や欲にまみれず、正しく生きることの象徴として、仏教の極楽浄土信仰のシンボリック存在になったように思えます。



生きていた時に正しい信心を得た人が、極楽の蓮の台の上に生まれかわる事を、「蓮花化生^{れんげけしやう}」と云うそうですが、よく似た言葉に「一蓮托生」と云う熟語があります。

時として、悪事などの運命共同体的な使われ方もしますが、本来の正しい意味で言えば、死後、一緒に極楽の同じ蓮の花の台に生まれ変わると云うことだと思っています。

もう一つ、蓮に因んだ熟語に「拈華微笑」と云う禅の言葉があります。

お釈迦様が、靈鷲山りやうじゆせんと云う所で、沢山の衆生や弟子の前で説法をされていて、蓮の花をつまんで高くかかげました。しかし、誰もその意味を理解することが出来ませんでした。そんな中で只一人、摩訶迦葉まかしょうと云う弟子がにっこり微笑みました。そこでお釈迦様は、仏法の奥義を迦葉に授けました。

「拈華微笑」と云う言葉は、この故事に由来しています。この言葉から禅宗では、言葉で表すことの難しい仏法

の真理を、師から弟子に心を以て一心に伝うという修行が成され、「以心伝心」と云う言葉も生まれたのでしょう。取り止めの無い事を書き連ねましたが、改元された令和の時代にふさわしく、残りの人生は、蓮の花を見習って清く正しく暮らしたいと思います。出来れば一死後、極楽の蓮華の台に生まれかわりたいと念う事は、やはり世俗の欲にまみれていると云う証でしょうかね。

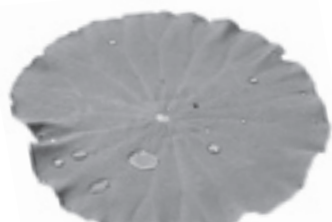
おさだ塾秋の自主公演のお知らせ

観客完全参加の終日野外劇

『町かどの藝能』その四十五

「般若林」のお庭に入ってすぐの木戸を一步くぐると
其処は江戸時代の京の都——
芸商人の芸と商い、観客の笑顔に溢れる
江戸時代の縁日にタイムスリップ

令和元年十月十一日(金)・十二日(土)・十三日(日) 十一時～十六時 於・般若林(相国寺北門前町)
お問い合わせ先／おさだ塾 TEL・FAX(〇七五)二二一〇一三八



○鹿苑寺開山忌

十一月二十一日、鹿苑寺（澤宗泰執事長）では開山忌並びに開基足利義満公の諷経が厳修された。小林老大師を導師に、佐分宗務総長はじめ相国寺一山ならびに縁故寺院尊宿により諷経がなされた。

○相国寺派前管長梶谷宗忍老大師大忌
（二十五回忌）厳修

一月十五日、十六日の両日本山に於いて相国寺派前管長、相国寺、鹿苑寺、慈照寺前住職ならびに大通院前々住職の止々庵梶谷宗忍老大師の大忌忌が厳修された。

十五日は「臨済・百丈両禪師忌」「西笑・独園両禪師忌」の法要に続いて、宿忌法要が本山一山の僧侶により執り行われた。

翌十六日は、澤大道国泰寺派管長猥下、

南禅寺派光雲寺田中寛州老大師をはじめ、

本山一山、止々庵老大師会下の大通会寺院、縁故寺院、本派寺院、尼門跡寺院より僧侶百名、御親族、総代、相楽社、他関係者が三十五名参集のもと、有馬管長を導師に小林老大師以下相国寺一山が出頭し、十時半より法堂に於いて楞嚴行導による半斎法要が厳修された。

法要後は、方丈に於いて精進料理がふるまわれ、先師の遺徳を偲んだ。

法要香語は左の如し。

止々庵老大師大忌忌香語

煦育深恩親自親 煦育の深恩、親自ら親し
耳提面命太諄々 耳提面命、太だ諄々
屈伸老懶慚愧指 老懶慚愧の指を、屈伸すれば
二十五回一様春 二十五回、一様の春

頼底九拜

定中昭鑑

※煦育……あたたい教え

耳提面命……向かい合って、理解できるよこに
説き聞かせること

○第十四回臨黄教化研究会

二月六日、七日の両日、花園大学の教堂並びに花園会館において臨黄合議所主催による第十四回臨黄教化研究会が開催され、本派からは教区順に佐分昭文師（第一教区豊光寺副住職）、澤宗秀師（同林光院副住職）、荒木泰量師（同光源院副住職）、有浦宗健師（同長得院副住職）、荒木文紹師（第二教区光照寺住職）、佐々木契堂師（第三教区天正寺住職）、加藤幹人師（第四教区南陽寺住職）の七名が参加し研鑽を積んだ。また開講式と基調講演には佐分宗務総長、矢野教学部長も出席した。

○第一教区総会

二月十二日、第一教区総会が開催され、有馬管長以下、第一教区各寺院住職、閑栖和尚、副住職の計十九名が出席した。

○横浜能楽堂企画公演 能『朝長』出仕法要

二月十六日、横浜能楽堂において「風雅と無常―修羅能の世界」相国寺より十名僧侶が神奈川県横浜市の横浜能楽堂に出向し、観世流梅若家の依頼により、能の曲目『朝長』の中で特別演出として、能舞台上で観音懺法会の法要を行った。

物語の主人公である源朝長（一一四三―一一六〇）は、源義朝の次男で源頼朝や義経の異母兄にあたり、平治の乱で平家方に敗れ東国への敗走途中に負傷、美濃国青墓宿（現岐阜県大垣市付近）で自害したとされる。（現岐阜県大垣市付近）で自害したとされる。能の曲目では、生前中に朝長の養育係であった嵯峨清涼寺（京都市右京区）の僧が、弔いのためにその地を訪れ観音懺法の法要を勤める

と、朝長が亡霊となって現れ敗戦や自害の様子を語り、死後の修羅道に落ちた苦しみから、僧にさらなる回向を頼み消えていくまでの様子を修羅能として扱っている。

今回、横浜能楽堂では「風雅と無常―修羅能の世界」(全六回)公演を企画され、その第五回「無常」の曲目として相国寺観音懺法会入り『朝長』がシテ方観世流梅若実師ほかの能楽師により演じられ、物語の前半と後半の間の演出として、観音懺法の中から鼓鉦四役による「勧請」、坐誦による「一心奉請」、行導による「四方念仏」を特に法要として厳修した。

経験のない能舞台上での法要とあり、事前の打ち合わせやそれに合わせた所作と声明の稽古を繰り返し行うなどして臨み、当日の前シテ、後シテの間に重厚な法会を厳修することができた。

出資僧侶と諸役は次の通り。

◆役配

太鼓

長栄和尚

大光明和尚

普廣和尚

哲永東堂(慈照院副住職)

大鉦

正道東堂(眞如寺住職)

賢明東堂(是心寺住職)

昭文塔主(豊光寺副住職)

打磬

宗秀塔主(林光院副住職)

中鉦

泰量塔主(光源院副住職)

小鉦

景山座元(養源院副住職)

(巻頭カラー4ページ参照)

○臨済宗連合各派布教師特別研修会 ならびに理事会

二月二十六日より二十八日まで、建仁寺(京都市東山区)に於いて布教師特別研修会が開催され、初日の開講式と理事会には矢野教育学部長が、最終日の閉講式には佐分宗務総長が出席した。

○東京別院開山忌並観梅茶会

三月三日、相国寺東京別院において開山忌が厳修され、有馬管長導師のもと佐分宗務総長をはじめ一山和尚や招待客が出席した。あいにくの雨模様ではあったが、茶室「正覚庵」では本年も管長自らのお点前による濃茶がふるまわれた。書院での薄茶席に続き、客殿の点心席では、庭園の見ごろとなった紅梅白梅をご覧いただいた。濃茶席、薄茶席、点心席での接待や諸説明、来客の受付案内等は、一山和尚が務めた。

○禅文化研究所理事会

三月四日、公益財団法人禅文化研究所理事会が同所にて開催され、佐分宗務総長、久山慈照寺執事が出席した。

○定期宗会

三月七日、各教区から登山した七名の宗会議員、評議会議長、鹿苑寺・慈照寺各代表、内局

○春期巡教

臨済宗連合各派布教団に所属する本派布教師の「平成三十一年度定期巡教」で、石崎靖宗師(第四教区海岸寺住職)が三月十四、二十五日に島根県の東福寺派十二カ寺を、松本憲融師(第六教区光明寺閑栖)が三月十八、二十七日に福岡県の大徳寺派十四カ寺を順に巡教した。

○瑞林寺夢窓国師毎歳忌

三月二十四日、第三教区瑞林寺（三重県津市・長谷寺高山宗親住職兼務）では開山毎歳忌が厳修され、山本財務部長と荒木光源院副住職が拝請を受け出頭した。

（教区だより65ページ参照）

○慈照寺住職就任

四月一日、規則の改正により慈照寺住職が、有馬頼底前住職に代わり相国寺派宗務総長の佐分宗順師となり、同日付で辞令が発行された。任期は令和二年四月末日までの暫定期間となる。

○第四教区若狭少年研修会

四月四日、第五十回・第四教区若狭少年研修会が、本山方丈・大書院にて行われた。今回は学童五十名と寺院八名、役員六名の計六十四名が参加した。登山した少年少女たちは、方丈での開会式で般若心経、消災呪を唱え、佐分



記念品を受け取る参加者

宗務総長の法話、第四教区伊藤彰相国会会長挨拶を聞いたあと、教学部指導による坐禅を体験した。また、参加記念として本山より数珠とクリアファイルが送られ、別室にて職員

お手製のカレーライスを作法に従って頂いた後、次の目的地へ向かった。

○円覚寺大用国師二百年遠諱法要

四月十一日、大本山円覚寺（神奈川県鎌倉市）に於いて、大用国師 誠拙周楞禪師（二七四五―一八二〇）の二百年遠諱法要半斎が厳修され、拝請により相国寺ならびに相国寺派より有馬管長、小林老大師、佐分宗務総長、矢野謙堂師（大光明寺住職）、江上参事が出頭した。大用国師は、円覚寺の中興であり、また相国寺をはじめ各所に専門道場を開かれた高僧であり、京都滞在中に相国寺にてお亡くなりになった。

当日は同国師に法縁のある臨済宗各派管長猊下、老大師をはじめ、円覚寺派、同派専門道場出身の各寺院、建長寺山内各寺院ほか多数の列席者のもと、横田南嶺円覚寺派管長猊下ご導師により、厳肅なる法要、楞嚴呪読経が仏殿において行われた。



坐禅する参加者



若狭相国会会長伊藤彰氏挨拶

○相国寺派専門道場「三師合齋会」^{がつさいえ}

四月十五日、十六日の両日、本派専門道場の大通院に於いて、三師合同の法要「合齋会」^{がつさいえ}が厳修された。前述のように相国寺に専門道場を開かれた円覚寺中興である大用国師^{だいゆう}二百年遠諱、相国寺派前管長で前々専門道場師家である止々庵^{ししあん}梶谷宗忍^{かじにそうにん}老大師大志忌^{だいしき}（二十五回忌）、前専門道場師家である拈華室^{ねんげしつ}田中芳州^{ほうしゅう}老大師称名忌^{しょうめいき}（十三回忌）として、現師家の小林玄徳^{げんたけ}老大師が導師のもと、十五日の宿忌、十六日の半斎には有馬管長、澤大道国泰寺派管長猋下、南禅寺派専門道場師家の日下元精^{げんけい}老大師、光雲寺田中寛州^{かんしゅう}老大師、南陽院鈴木正澄師をはじめ相国寺一山、専門道場出身僧侶で構成される大通会の諸師方、同院檀信徒、在家縁故者など約百三十名の列席者があった。両日とも楞嚴



大用国師(中央)止々庵老大師(右)拈華室老大師(左)頂相

呪行導の法要が営まれ、三名の先師の遺徳を偲んだ。

小林老大師香語は左の如し。

廿五年兼十三年

師資携手上斎筵

顕揚大用中興跡

禪骨連綿大通巔

玄徳九拜

定中昭鑑

○臨黄合議所理事会

四月二十五日、臨黄合議所理事会が建仁寺に於いて開催され、佐分宗務総長が出席した。

○一衣帯水—中日友好芸術展

五月九日より十二日まで、中国上海市の雲間美術館にて、一衣帯水—中日友好芸術展（雲間美術館、京都仏教協会共催）が開催され、相国寺からは有馬管長の墨蹟が出展された。



上海雲間美術館にて講演を行う管長



西山弁財天で導師を勤める有馬管長

○日田辯財天春季大祭
五月二十七日、大分県日田市にある西之山辯財天堂で春季大祭法要があり、有馬管長を導師に、本山より矢野教学部長、江上参事、佐分財務部長、有浦教学部長が、また管長が徒弟時代



玉仏寺覚醒法師の表敬訪問を受ける有馬管長

また、九日のオープニングセレモニーでは有馬管長の講演を頂き、バチカン市国にて普回向をもとに法話を行った話から、文化交流による平和的な相互発展や、慈愛の精神に基

○禅文化研究所理事会
五月三十日、公益財団法人禅文化研究所理事会が同所にて開催され、佐分宗務総長、久山慈照寺執事が出席した。



肩たたきを受ける参拝者

を過ごした岳林寺の瀬川道信住職（妙心寺派）ほか縁故寺院が出頭して大般若転読諷誦、参拝者と共に弁財尊天御真言諷誦が行われた。

づく交流の拡大について説かれた。
翌十日には滞在先ホテルにて、上海玉仏寺覚醒法師の表敬訪問を受け、互いの健康を祝い、更に友好を深められた。

○慈照寺開山忌

五月二十一日、慈照寺（佐分宗順住職）では開山忌並びに開基足利義政公の諷経が厳修された。有馬管長、小林老大師をはじめ一山尊宿、関係寺院僧侶により諷経がなされた。

○相国会本部役員会

五月二十九日、午後一時より本山会議室において、令和元年度相国会本部役員会が開催

された。般若心経一巻を誦経後、相国会総裁の有馬管長より挨拶を賜り、引き続き副総裁の佐分宗務総長挨拶、第六教区理事上野敏孝氏の議長選出を経て審議に入った。平成三十九年度事業・決算報告、平成三十一・令和元年度予算案、事業計画案の順に事務局より示され、それぞれ承認可決された。

当日の出席者は左記の通り。

理事	顧問
第一教区 片岡 匡三	澤 宗泰
第二教区 波多野 外茂治	牛江 宗道
第三教区 欠席	梶谷 承忍
第四教区 伊藤 彰	木下 雅教
第五教区 杉原 定	延本 輝典
第六教区 上野 敏孝	芝原 一三
他、宗務総長以下内局員 四名	

○前堂転位式

六月一日、開山堂に於いて第一教区慈雲院



千里同風為一真

須賀師は平成四年生まれ、京都両洋高校卒業後、相国寺専門道場にて修行された。拝塔偈は左の如し。

旭日瞳瞳放瑞光
南風一路燕回帰
凜然決意歎無限



須賀集信師

精進一句巡院内

○令和元年度 春期特別拝観

三月二十四日より六月四日までの春期拝



中山周真師

夏日還梅養其神
仏門覚路石為身
両忘歲月悲思量

（草場周啓住職）徒弟の中山周真師、ならびに第一教区瑞春院（須賀玄集住職）徒弟の須賀集信師の前堂転位式が挙行された（届け出順）。また同日付で中山師が同教区慈雲院副住職に、須賀師が同教区瑞春院副住職に就任した。両師の今後の活躍が期待される。

中山師は昭和五十四年生まれ、府立北嵯峨高校卒業後、相国寺専門道場にて修行された。拝塔偈は左の如し。

観による法堂・方丈・宣明（浴室）を公開し、一六、八二二名の参拝があった。

秋期特別拝観は、九月二十五日より十二月十五日まで、法堂・方丈・開山堂を公開の予定である。

○観音懺法会「ご先祖追善供養」

六月八日から十四日まで、伊藤若冲筆「動植綵絵」コロタイプ複製画三十幅を方丈に掛けて公開した。期間中に多くの来訪者を受付

した。

○観音懺法会

年中行事の一つの「観音懺法会」が、恒例により六月十七日午前七時半より厳修された。法要中に多くの参拝者が訪れた。

諸役は次の通り。

◆役配

導師	賢明東堂（是心寺住職）
香華	昭文塔主（豊光寺副住職）
自帰	慈照大和尚
打磬	宗秀塔主（林光院副住職）
太鼓	長栄和尚
大鉞	正道東堂（眞如寺住職）
中鉞	泰量塔主（光源院副住職）
小鉞	景山座元（養源院副住職）
維那	普廣和尚



坐禅会のご案内

本山維摩会

毎月第二・第四日曜日開催
（※一月第二、八月第二・第四、十二月第四日曜日は休会です）

相国寺の維摩会は、明治時代に当時の第一二六世荻野独園住職が、主に在家を対象として始めた坐禅会であり、以来歴代の相国寺住職が指導にあたってきました。第二次大戦中より戦後昭和三十八年頃までは、相国寺塔頭大光明寺で開催され、それ以降は再び本山での開催となり、現在に至っています。

維摩会の名称の由来は、經典『維摩経』の主人公で、在家でありながら釈迦の弟子となった古代インドの維摩居士からつけられたものです。

会場…相国寺 本山大書院

時間…午前九時より十一時迄

内容…坐禅（九時～十時半）

法話（十時半～十一時）

注意点…当日は八時五十分までに必ずお集まり下さい。十人以上で参加の際は、前日までに電話連絡をお願い致します。（電話〇七五―二三一―〇三〇二）

尚、満員の場合はやむなく御断りする場合もございますので、あらかじめご了承ください。初めての方には、別室で坐禅指導を行います。

威儀…服装は、楽でゆつたりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、硬い素材（デニムなど）は避けて下さい。

東京維摩会^{ゆいまかい}

本年の開催日は左記の通りです。

会場…相国寺東京別院 方丈・客殿

有馬管長坐禅会

九月十四日(土)、十月十二日(土)、十一月十六日(土)、十二月十四日(土) (八月は休会です)

時間…午前十時半より正午頃迄

内容…『寒山詩』提唱、坐禅、茶礼

注意点…五人以上で参加の際は、前日までに電話連絡をお願いします。

満員の場合はやむなく御断りする場合もございますので、あらかじめご了承ください。

威儀…服装は、楽でゆつたりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、硬い素材（デニムなど）は避けて下さい。

小林老師坐禅会

八月二十四日(土)、九月七日(土)、十月二十六日(土)、十一月九日(土)、十二月二十二日(日)

時間…午後一時より二時半迄

内容…『臨濟録』提唱、坐禅、茶礼

注意点…五人以上で参加の際は、前日までに電話連絡をお願いします。

満員の場合はやむなく御断りする場合もございますので、あらかじめご了承ください。

威儀…袴を貸与するも、足りない可能性がありますので、服装は、楽でゆつたりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、硬い素材（デニムなど）は避けて下さい。

※開催日を変更する場合があります。最新の情報は、相国寺ホームページをご覧ください。相国寺東京別院（電話〇三―三四〇〇―五八五八）までお問い合わせ下さい。



東京維摩会会場 方丈・客殿 玄関



TEL 03-3400-5858

会場：方丈・客殿

〒107-0062 東京都港区南青山6丁目13-12

第一教区

○大光明寺 出町妙音弁財天

「春季大祭 注連縄掛替法要」

四月二十二日、大光明寺（矢野謙堂住職）では、飛び地境内の出町青龍妙音弁財天において「春季大祭」が行われ、第一教区より江上正道眞如寺住職、佐分昭文豊光寺副住職、第二教区より牛江宗道竹林寺住職、第三教区より佐々木契堂天正寺住職、相国僧堂雲衲三名が出頭した。この地は、通称妙音堂または弁天さんと地元の人々に呼ばれて親しまれており、当日も多数のお参りがあった。

法要に先立ち芸能を司る弁財



妙音堂春季大祭

天にちなみ、筑前琵琶谷口旭佳師範、田中旭泉師範はじめ演者の方々による奉納演奏があった。

また元号が令和に替わるため、それを記念して境内の御神木オガタマの木二本の注連縄掛け替え入魂の法要が厳修され、この日のため

に有馬管長（妙音堂前堂主）が作られた香語を矢野住職が代唱した。

香語は左記の如し。

祝語

平成往令和来年 平成往きて、令和来る年
一曲琵琶日月旋 一曲の琵琶、日月旋る
側聆天衆今何在 聆を側だつれば、
天衆今何にか在る
只見虚空誰與伝 只だ見る虚空、
誰と與にか伝えん

○眞如寺法堂内

「寶鏡寺宮尼門跡像四体修復安座法要・式典」

四月二十三日、山外塔頭の眞如寺（江上正道住職）において「寶鏡寺宮歴代門跡像修復安座法要・式典」が厳修された。「人形寺」として知られる寶鏡寺門跡（京都市上京区）は、十三世紀後半に創建された尼五山筆頭の景愛寺（廃寺）の法灯を受け継ぐ尼門跡寺院である。その

景愛寺の開山である無外如大尼は、晩年衣笠山のふもとに正脈庵を創庵し余生を過ごされ、没後その地が眞如寺と改められ伽藍が整備され如大尼は勧請開基としてまつられてきた。

眞如寺は室町時代後半になると、如大尼と同じ尼僧としての縁を慕った寶鏡寺第十七世以降の菩提所としての役割も担うようになり、江戸時代の後水尾天皇皇女で寶鏡寺第二十世門跡となった仙壽院宮理昌尼からはお像が四世にわたって作られ、法堂に安置されてきた。

しかしながらこれら四体のお像は、一〇〇年以上前の明治時代の修復以降、修理がなされず経年による痛みが激しく、早急に修復しなければならぬ状況下にあり、長年にわたる尼門跡寺院の研究調査実績のある中世日本研究所の先生方の調査と御推薦により、平成二十六年に文化財保護・芸術研究助成財団の「尼門跡寺院の文化財保存修復事業」の対象となり、それ以降六年間で四体のお像を順に修復するプロジェクトへと発展した。

美しさを取り戻した
寶鏡寺歴代尼門跡像



修復関係者が出席して行われた修復安座法要

本年春に最後の四体目お像修復と搬入が終わり、この度寶鏡寺門跡をはじめ関係寺院と修復関係者が列席のもと「寶鏡寺宮尼門跡像四体修復完了安座法要・記念式典」が行われ、法要後にはお像の修理報告がされた。

また改元後の五月五日から十二日には、その記念として「春期特別拝観」が行われ、法堂・客殿でお像群と寶鏡寺宮ゆかりの墨蹟などが公開された。さらに期間中には、修復に係わった寶鏡寺門跡の田中恵厚尼、中世日本研究所のパトリシア・フィスター氏、モニカ・ペーテ氏、美術院技師の高田明氏による「記念講演会」も開催され、多くの来訪者があった。

○大光明寺 出町青龍妙音辨財天

「第七回 巳の日法要」

令和元年五月八日初巳の日、大光明寺飛び地境内妙音堂において、「第七回巳の日法要」が厳修され、第一教区より眞如寺、豊光寺副住職、第三教区より天正寺が出頭した。

この法要は平成最後の巳歳（平成二十五年）より続けられており、祈祷申込者全員に妙音堂拝殿内で一人ずつお札とお守りが授与され、大般若経本による厄除け肩たたきが行われる。また希望者は回向の途中で自らの祈願事を住職が読み上げる。この日も多数のお参りがあり境内はにぎわった。来年は五月二日の開催予定である。

○眞如寺「半僧坊大権現御開帳 法要」

五月十二日、眞如寺に於いて「半僧坊大権現御開帳・法要」が行われ、半僧坊の本山方広寺（静岡県浜松市）より講社部長、相国寺より大光明寺住職、豊光寺副住職ほか縁故寺院が出

頭した。当日は春期特別拝観最終日にあたり、境内のカキツバタと青もみじが見ごろをむかえ、和太鼓・獅子舞奉納、手作り市などと合わせて終日にぎわった。来年は五月十日の開催予定である。



半僧坊御開帳に合わせて行われる獅子舞の奉納

第二教区

○大雲寺齋会

四月二十七日、大雲寺（中川弘道住職・亀岡市）で、先々住斎藤文峰和尚五十年諱・先住中川貫道和尚大士忌（二十五回忌）合齋会が厳修された。時ならぬ寒波の影響で肌寒い一日となったが、法類寺院をはじめ、縁故寺院、檀家総代、親族ら二十名が参列、先師の遺徳を偲んだ。第二教区からは、福性寺・長遠寺・大應寺の三ヶ寺が出頭した。

○定期総会

四月二十七日、午後四時より福性寺（吉田厚司住職・亀岡市）に於いて、第二教区の定期総会が十一名の住職・閑栖が出席して開催された。賦課金等が集められて、本堂にて全員で諷経したあと総会に入った。会計報告、本山からの報告がなされた。衆団得度式の案内がされると、「授戒会を是非やって欲しい」とい



福性寺で開催された定期総会

う声が挙がった。その後、亀岡駅近の近くの料亭に場を移して食事を頂き、懇親を深めた。

○竹林寺齋会

五月二十六日、竹林寺（牛江宗道住職・京都市左京区）で、先住高林文栄和尚二十五回忌の法要が営まれた。気温三十三度超の異常な暑さの中で、出席者の体調が心配されたが、体調を崩す人もなく、無事厳修された。

法類寺院（慈雲院・長栄寺）をはじめとして、是心寺閑栖和尚、同住職が随喜出頭し、檀家も参列し、文栄和尚の遺徳を偲んだ。

第三教区

○瑞林寺夢窓國師毎歳忌

三月二十四日、瑞林寺（三重県津市片田井戸町・長谷寺高山宗親兼務住職）では、大本山から山木雅晶財務部長、荒木泰量光源院副住

職を拝請、開山毎歳忌を厳修した。

当日は、本堂にて本尊回向、続いて佐々木家供養並びに井戸町戦士戦没者追善供養の後、夢窓國師生誕地記念碑前に移動し拝塔諷経を行った。例年になく好天に恵まれ参列者一同焼香し國師の遺徳を偲んだ。



瑞林寺境内記念碑前で諷経する参列者

第四教区

○長福寺 齋会

十一月十日、長福寺に於いて厳修した。先住正憲和尚十七回忌法要を行った。教区和尚が出頭した。

○真乗寺 齋会

十一月十八日、真乗寺に於いて厳修した。先住文雅和尚二十五回忌法要を行った。本派管長有馬頼底老大師導師の下、近隣・縁故寺院並びに教区和尚が出頭した。

○宗務支所 支所会

十二月十二日、支所会を真乗寺に於いて開催した。春季巡教について協議した。

○若狭相国会 役員会

二月七日、真乗寺に於いて開催した。少年研修会、巡教の日程について検討した。

相国会総会について協議した。

○若狭相国会 総会

五月二十二日、元興寺において開催した。講演は相国寺史編纂室の藤田和敏研究員が行った。

第五教区

○出雲相国会総会

五月十日、富田寺に於いて令和元年度出雲相国会総会を開催いたしました。教区内の寺院、寺院の総代役員が出席。平成三十年度の事業報告、決算報告を審議し承認された。

出雲相国会の令和元年度予算、事業計画が審議された。主な令和元年度の事業は、夏休み親子坐禅会、本山開山忌に合わせたの団体参拝、出雲相国会だよりの作成。

団体参拝の折、比叡山延暦寺、大阪の万博

○宗務支所 支所会

二月十九日、教区新年会を行った。

○若狭相国会 春季巡教

三月九日・十一日 教区寺院五ヶ寺(西林寺・南陽寺・潮音院・円福寺・常禅寺)にて開催した。

○若狭相国会 少年研修会

四月四日、第五十回若狭少年研修会を行った。児童五十二名が参加した。

○宗務支所 支所会

四月二十二日、真乗寺に於いて開催した。定期宗議会報告・平成三十年度教区会計報告、教区視察研修について協議した。

○若狭相国会 役員会

五月八日、高浜の城山荘に於いて開催した。平成三十年度会計監査・令和元年度予算、若狭

記念公園「太陽の塔」を見学するように旅行会社をお願いした。

第六教区

○第六教区住職会

五月十四日、午後六時より霧島観光ホテルにて今年度の第六教区住職会が開催されました。

当教区は各寺院がとても遠距離なので、年に一度のこの住職会を楽しみにしています。今年も閑栖和尚、住職、副住職が全員集合して、和合専一をモットーに親睦を深めました。



第七十五回「同宗連」研修会参加報告

参加報告者 第一教区 林光院副住職 澤 宗秀

開催日 二〇一九年一月二十三日(水)～二十四日(木)

テーマ 「ハンセン病問題に学ぶ」家族訴訟から問われること

会場 真宗大谷派沖繩別院・国立療養所 沖繩愛楽園

二日間の日程で開催された同宗連の研修会に参加させていただきました。

今回のテーマは、ハンセン病ということで、講演とフィールドワークを通じて学ばせていただきました。

ハンセン病は、名前自体は広く知られていても、正しく理解されていない病気です。まずは基本のハンセン病について学びました。ハンセン病はらい菌という細菌です。しかし、らい菌は試験管の培養でも成功しておらず、かろうじて人間の体内で生き残る非常に弱い菌です。そのため感染力は非常に弱く乳幼児期にたくさんの量のらい菌を頻繁に口や

鼻から吸い込む主に呼吸器感染以外まず発症しません。発病までには、その人の免疫機能、栄養状態、衛生状態、経済状態の要因が大きく関係しています。日本において感染源になる患者がほとんどいなくなったため感染することはほとんどなくなりました。また感染した場合でも、現在の日本では発症することはありません。

ハンセン病は、発症すると皮膚と末梢神経が侵される慢性感染症です。皮膚の症状は赤い紅斑や環状の皮膚症状、盛り上がったしこりができます。また、らい菌がノルウェーのアルマウエル・ハンセン氏によって発見されたことからハンセン病と呼ばれるようになりました。

かつて日本国内においてハンセン病患者が多く存在したのは、戦時中の衛生状態の悪さ、栄養状態の悪さが関係しており、また、発症後の皮膚状態の様子から誤った知識が広がり、隔離政策に至ってしまいました。

講演一…「ハンセン病問題に学ぶ」～家族訴訟から問われること～

講師 徳田 靖之氏(弁護士)

●ハンセン病家族の被害とはどのようなものか

国のハンセン病隔離政策は当初から家族そのものを標的にしてきた。らい予防法は平成八年に撤廃されるまで長くハンセン病患者を隔離し、人権をはく奪してきた法律である。

国はハンセン病を恐ろしい伝染病と国民に植え付け、国家事業としてハンセン病患者を隔離しました。ハンセン病に感染したものは家や衣類を消毒して家族は村八分にされたり、子どもは学校でいじめや教師からも差別を受けたそうだ。ハンセン病に感染した家族のいる家庭は、その地にいられなくなり家族がバラバラになるケースが多かったようだ。中には誤った知識からハンセン病の母から娘は、絶対に子供を産んではいけないと言われた方もあり、長年にわたり遺伝的要因や感染について誤った知識が解消されず、今なお続いている。しかしながら、このような政策をとってきたのは国であり、加害者なのだが、直接の差別をした人間は学校の先生、役人、近隣の住民となっている。らい予防法により当人の隔離されたことによる尊厳のはく奪だけでなく、二次的に差別を受ける家族の受ける苦しみと二重の差別を受けることになってしまいうことがハンセン病問題なのである。



講義Ⅰ（講師 徳田靖之）

講義二…議題 「沖縄のハンセン病問題と米軍基地

—真宗大谷派の取り組みを一例として—

講師 長谷 暢氏（真宗大谷派 沖縄別院出仕）

宗教者とハンセン病差別の関わりとして、らい予防法が撤廃された年に真宗大谷派は謝罪の声明文を当時の宗務総長が発表しています。内容としては、ハンセン病がらい菌という極めて弱い病原体による伝染病であることが判明して一世紀。それに関連して感染力は極めて弱く、潜伏期間は極めて長いことが判明して七十年から八十年が経過しました。しかしながら、「らい予防法」は平成八年に撤廃されるまで長きにわたり国の政策として続けられました。この法律は「らい」の治療のためのものではなく、非感染者の「安全」のために、隔離を目的としてつくられたものです。この法律は、病としては一つの感染症に過ぎない「らい」について「法」を後ろ盾にしながら、強制隔離を必要とするような「恐ろしい病氣」であるという誤った認識を社会に植え付け、国の隔離政策を正当化するものとして機能してきました。

一九三一年、真宗大谷派は「らい予防法」の成立にあわせ、教団を挙げて「大谷派光明会」を発足させました。当時から隔離の必要性がないことを主張した医学者の存在を見ず、当時の隔離政策を主張する権威博士らの意見のみを根拠に無批判に国家政策に追従し、隔離という政策徹底に大きな役目を担っていきました。



講義Ⅱ(講師 長谷 暢)

教団は「教え」と権威によって、隔離政策を支える社会意識を助長してきました。布教の中には隔離を運命とあきらめさせ、園の内と外を目覚めさせないあやまりを犯したものがあつたことも認めざるをえません。このような国家と教団の連動した関わりが、偏見に基づく排除の理論によって「病そのものとは別の、もう一つの苦しみ」をもたらしたのです。私たち真宗大谷派教団と国家に大きな責任があることは明白な歴史の事実なのです。本当に申し訳ないことです。これらの歴史的事実を深く心に刻み、すべての人々に謝罪します。

同時に、私自身が継続的な「学習」を続けていくこと、そして「教え」ことが常に人間回復・解放の力と成り得る

ような、生きた教えの構築と強化を宗門の課題として取り組んでいくことをここに誓うものです。(謝罪声明文一部抜粋)

このように、宗教者として布教する中でハンセン病の正しい認識がないまま、国家の政策を良きものとして疑問を抱かぬまま布教したことが結果として二次的三次的なハンセン病の差別助長につながったと振り返っておられる。また講師はこのような現象は現代において沖縄の米軍基地問題とつながると指摘された。北朝鮮の脅威、尖閣諸島問題を挙げて国民の不安をあり、沖縄に基地負担を強いるのはかつてのハンセン病のたどってきた歴史と通ずるところがある。今一度、ハンセン病の歴史的背景を振り返り、沖縄の米軍基地問題に目を向けてほしいと訴えられた。

二日目 施設見学・フィールドワーク

講師 平良 仁雄氏(沖縄愛楽園・ボランティアガイド)

施設見学をしながら、ハンセン病の隔離病棟の実体験を当事者より拝聴しました。

沖縄県においては戦後の栄養状態、衛生状態など環境が悪かったためハンセン病患者が非常に多かったそうだ。ハンセン病患者の四〇%を占めるほどでした。愛楽園は一九三八年に開園し、現在八十年目。いわゆるハンセン病の隔離病院として存在してきました。現在の愛楽園の理念は、「入所者・高齢者が安心して生活できる場の提供」入所者の

権利及び人格を尊厳するというものであるが、その今では当たり前のことである理念とは程遠い「医療行為」が、戦前から戦後までも行われていたそうです。

一、家族との関係を 断ち切られる隔離収容

講師の平良さんは九歳で無理やり家族から離され、愛楽園に収容されたそうです。それまでは一家の跡取り息子として家庭で大変父親からかわいがられた平良さんでしたが、収容後は職員が監視する面会室で仕切りを隔ててしか父親と会えず、体に触れることもできなくなったそうです。面会も父親が二回だけ来たのみでした。また施設職員とも完全に切り離



講義Ⅲ（講師 平良仁雄）

され入所者の身に何かあったときは、職員に拍子木をたたいて知らせ、入居者が患者の部屋を消毒したあと、職員が土足で上がって診察するというものだったそうです。症状が良くなり十七歳で帰郷し結婚されました。しかし、再び発症し入所、奥さんと引き離され、その後奥さんは心を壊し自殺されます。

ハンセン病による隔離政策により平良さんは幼少期に家族と別れ、そして青年期には奥さんを亡くすというつらい経験をしています。「らい予防法」が無ければ家族と別れることはなかったと今でも傷を抱いておられます。

一、強制不妊

愛楽園では園内での結婚は認められていたが、結婚を条件に断種が実施されており、男性は強制的な不妊手術を受けなければならなかった。当時の愛楽園は村ほどの敷地があり、結婚後手術を拒み逃げ回った入居者もいたが、園は見つけ出し、コンクリートの手術台上に男性は全裸で押さえつけられ医師は無言でメスを入れたそうだ。また、妊娠した女性には膨らんだおなかに看護婦が薬剤を注射し、強制的に死産させるという行為もあったようだ。

戦争で栄養状態が悪くなると、ハンセン病の発病者が増え、愛楽園では四五〇ベットの収容人数のところ九〇〇名に膨れ上がり、その人々は人としての尊厳を奪われ、先が見えない隔離状態におかれたとのこと。虐げられた人数の多さに驚くばかりでした。



フィールドワーク(国立療養所沖縄愛楽園)

◆研修を通して

宗教者として、言葉で救われる一面もあれば、言葉によって人を傷つける側面があるということを実感しました。大谷派の宗務総長さんが「らい予防法」撤廃の年にいち早く謝罪の声明文を出されたことに感銘し、宗教者として間違いを間違いと認めることのできる勇気の大切さを学びました。ハンセン病が一感染症に過ぎないのに、差別と絡み合いたくさんの人々の犠牲を生み出す結果を招いたのは、一概に病氣に対する認識の薄さ、無知、無関心、黙認であるとなりました。情報があふれる現在においても、事実と虚像が入り組んでいる中で、真実とは何かを自分の目で判断する力を身につけないとならないと思いました。

教化活動委員会活動報告

教化活動委員会委員長 佐分宗順

【研修会】

今年後半は、宗教とキャッシュレス社会についての研修会を開催する予定です。詳細は未定。おってご案内いたします。

そのほか、相国寺研究の研修会も予定しております。

【研相国寺史発刊】

相国寺史第一巻中世編一が発刊されました。(80ページ参照)

【京都仏教会との連携】

六月二十八日、相国寺寺務棟二階講堂に於いて京都仏教会の理事会、評議員会が開かれキャッシュレス決済の問題について声明文を採択いたしました。同日この問題を取り上げ、研修会を開き、相国寺本山始め各宗教団体が参加いたしました。声明文は次の通り。

【声 明】

「布施の原点に還る」

一「聖俗の分離」に従う。

・寺院の宗教活動は世俗の事業とは本質的に異なる。

・布施は財物に託して、信者の心、魂を仏様に捧げるものであり、対価取引の営業行為とは根本的に異なる。

・キャッシュレスによる布施は対面的である宗教行為の本旨に反するものであり、不適切である。
・宗教団体・宗教法人において、法要、拝観、葬儀などの宗教行為と収益事業は明確に分離されている。

二「信教の自由」を守る。

・布施のキャッシュレス化により宗教信者の個人情報および宗教的活動が第三者に把握される危険がある。

・信者の活動状況および個人情報を含むビッグデータから信者および寺院の信教の自由が侵されることを危惧する。

・信者および寺院の行動が外部に知られ宗教統制、宗教弾圧に利用されることを強く危惧する。
・布施のキャッシュレス化により手数料が発生し、収益事業として宗教課税をまねく恐れを憂慮する。

三「寺院への対応」を求める。

・傘下寺院に対して、寺院の宗教活動におけるキャッシュレス化を受け入れないことを求める。
・公益財団法人全日本仏教会と連携を密にし全国の宗派、寺院における対応を求めていく。
・日本宗教連盟、近畿宗教連盟その他全国の宗教連盟にも同様の対応を求めてゆく。

令和元年六月二十八日

一般財団法人 京都仏教会

理事長 有馬頼底

【相国寺ホームページ】

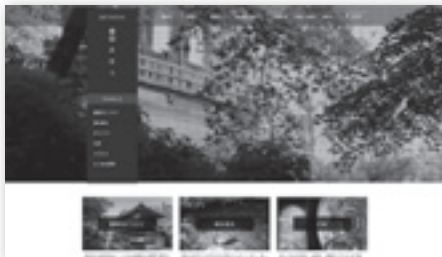
相国寺のホームページがリニューアルいたします。軽快に動き、スマートフォンや携帯端末でも見やすい画面になり、八月にはご覧いただけるよう準備中です。



本山トップ



金閣寺トップ



銀閣寺トップ



承天閣美術館トップ

『相国寺史』第一巻史料編中世一の刊行にあたって

関西大学教授・文学部長 原田 正俊

本年三月末に、『相国寺史』第一巻史料編中世一を京都の法藏館より刊行いたしました。本書は、相国寺の歴史を知るための基本史料集です。第一巻目は、夢窓疎石誕生の建治元年（一二七五）から応仁の乱直前の文正元年（一四六六）までの史料を掲載しています。本山当局の御支援のもと、相国寺史編纂室を開設し、作業を進めてきた成果の一部がようやく結実いたしました。

史料集ですから、漢文史料が列挙され難解と思われませんが、相国寺に関わる基本的な史料を集成したものです。現代社会でもしばしば問題とされるように、きちんとした史料や証拠に基づかない虚構の歴史やフェイクニュースが語られることがあります。そうした思い込みや勝手な解釈を生まないように歴史編纂の常としてこうした史料集を刊行し、さらにその後、平易な叙述の通史が編纂されます。史料編の目次は、詳細な年表としても活用できるようにしており、これだけを眺めても相国寺の幅広い歴史を読み取ることができます。

相国寺の歴史はこれまでもその概要が語られることはありましたが、寺史を研究するに当たっては寺に伝来する古文書が少ないことが大きな制約となっていました。江戸時代半ば以降の古文書はあるのですが、創建期から発展期とも言うべき南北朝・室町時代のいわゆる中世の古文書がほとんどない状況です。このため小島文鼎氏の稿本をもとに刊行された藤岡大拙・秋宗康子氏校訂『相国寺史料』全一卷（思文閣出版）も九割以上が江戸時代以降の記事となっています。室町時代については、史料がきわめて少ないのが問題でした。これは、創建以来の

度重なる伽藍焼失、応仁の乱をはじめとする戦乱、さらには江戸時代の天明八年（一七八八）の大火による火災のため多数の史料が失われたのです。京都の政治の中心部にある相国寺は、火事や戦乱の影響がきわめて大きかったといえます。

『相国寺史』編纂の御依頼を受けた時は、寺中を探せば少しぐらいは中世文書や中世の記録が出てくるかと期待しましたが、思うような史料は見えませんでした。そこで、史料を広く寺外の古文書、古記録から探し出す作業となりました。室町時代の相国寺の社会的な存在は大きく、住持をはじめとした寺僧の活動も活発であり、多数の史料を見つけ出すことができました。編纂室と監修者で地道な作業が長年にわたって続けられてきたのです。その成果が第一巻目としてまとめられ、日本全国の諸家、諸寺社にのこる古文書、日記、古記録、文学作品を博搜して関係史料を抽出して、年代順に史料を掲載しています。

例えば創建期の記録は寺中には残っていませんが、当時の公家の日記を見ていくと興味深い記事をひらっていくことができます。当時の公家の頂点にいた、一条経嗣の日記『荒暦（成恩寺関白記）』によると、永徳二年（一三八二）相国寺造営が始まった時の記事のいくつかを見ることができます。これによれば、法堂は洛北等持院の法堂が移築され、伽藍造営の指示は、春屋妙葩が主導し、近辺の敷地が次々と相国寺の境内に組み込まれたことがわかります。近辺の人々が引越を余儀なくされ、あたかも平清盛による福原遷都の時の様だと記しています。

また、こうした記事を相国寺にのこる「万年山相国承天禅寺諸回向并疏」とあわせてみると、永徳二年一〇月二九日に仏殿の立柱と法堂の上棟が行われたことが分かります。編年で各種の史料を集めていくと、新たな事実関係が分かるとともに、回向文などの内容も生きてくるわけです。

永徳四年には、天龍寺・真如寺・等持院の僧侶が総出で基礎工事を行い、まさに普請の様がみえます。造営事業は続き、淀川を使って材木が運ばれたようで、東寺にのこる古文書を見ると、淀・鳥羽から陸揚げされて運ばれる材木のスムーズな通過を相国寺が東寺に依頼しています。このように、相国寺創建時の状況が詳しく分かっています。寺史は今後、史料編中世二・三、近世近現代、そして最新の成果を生かした通史編の刊行が予定されています。時間がかかる仕事ではありますが、二一世紀初頭のこの編纂事業は、相国寺にとっても歴史にのこる企画といえます。今後機会を見つけ、寺史に関わる話題を紹介していきたいと思っています。



各講座および研修会の『講義録』をご希望の方

方は、一冊につき手数料二千円を添え、下記の相国寺派宗務本所内教化活動委員会宛にお申し込みください。各講座の参加申し込みや既刊の『講義録』リストは、相国寺派ホームページの「活動」・「研修会」・「書籍案内」をご覧ください。

申込先

相国寺教化活動委員会

〒六〇二-〇八九八

京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町七〇一

電話 〇七五-二三二-〇三〇一

FAX 〇七五-二二三-五九一

ホームページ (<http://www.shokoku-ji.jp>)

相国寺史編纂室だより ― 最初の相国寺炎上と復興 ―

この春、『相国寺史』第一巻史料編中世一が刊行しました。ここでは、その史料集から相国寺の歴史的一幕をもといてみたいと思います。

室町幕府三代將軍の足利義満は、永徳二年（一三八二）に相国寺の建立を思い立ち、そこから十年の歳月を経て、明徳三年（一三九二）に相国寺の落慶供養が行われました。ところが、そのわずか二年後であります応永元年（二三九四）九月二十四日の真夜中に、相国寺直歳寮から火が出て、諸堂・諸寮が焼失してしまいました。義満も火災現場に駆け付けたといえます。完成して間もなく燃えてしまったのですから、義満はさぞ落胆したことでしょう。そのとき絶海中津が、火災に遭った祇園精舎や中国の径山をその時々、皇帝が復興させたという話を義満に語り、義満に復興を決意させました。

そして同年十月一日、義満は空谷明応を三回目の相国寺住持に就任させ、再建事業を進めさせます。再建には多額の費用がかかります。そこで、若狭・播磨国などに一国平均役という臨時の税を賦課して相国寺の再建費用に充てました。これは荘園・公領を問わず、五年間

にわたり年貢の十分の一を徴収するものです。山城・丹波国などには、田の大きさに応じて徴収する段銭という税が課されました。通常は税が免除されている鎌倉の鶴岡八幡宮にも相国寺助成段銭が課せられ、その免除を求める史料も残っています。このように義満によって大々的に相国寺再建の費用が集められました。

そのおかげで、応永二年二月二十四日に相国寺仏殿の立柱が行われました。同年に内大臣に昇進した三条実冬は「相国寺仏殿の再建は足利義満の力によるものだ。諸堂は諸大名の負担で造られた」と日記に綴っています。將軍義満の大きな権力を背景に、相国寺の再建が順調に進められたのです。そして翌年六月二十三日に仏殿が完成しました。同じ年には法堂と山門の立柱も行われ、着々と復興を遂げていきました。

『相国寺史』を見ることによって、相国寺にまつわる歴史をこのようにくっきりと描くことができます。今後も編纂室では『相国寺史』の編纂を継続し、応仁の乱以降の史料を集めた「史料編中世二」の刊行に向けて取り組んでいきます。（相国寺史編纂室 中井裕子）

創業明暦年間  〒605-0862 京都市東山区清水二丁目221 TEL (075) 551-0738 / FAX (075) 531-9352 ゴヨウハシチミヤ 0120-540738 9:00~18:00 (冬季は9:00~17:00) http://www.shichimiya.co.jp/	夢のある空間づくりのパートナー  トータルディスプレイ 企画・設計・施工・管理 TOTAL DISPLAY FUSHIMI KOHGEI 株式会社 伏見工芸 [本社] 〒612-8009 京都市伏見区桃山町見附町11番地 TEL 075-621-2833 FAX 075-611-5465 [宇治工場] 〒611-0041 京都府宇治市横島町吹前15番地 TEL 0774-23-9255 FAX 0774-23-9254 e-mail: fushimi_d1.dion.ne.jp
税理士 奥谷 昌雄 税理士 内藤 誠 〒602-8026 京都市上京区新町通榎木町上る春帯町340番地 TEL (075) 256-2551 FAX (075) 255-7461	<i>Future Active Alliance</i> office やまと パソコンからネットワーク・サーバ構築まで IT環境のトータルアドバイザー 本社 〒604-8842 京都市中京区壬生土居ノ内町19-13 TEL: 075-311-9009 FAX: 075-311-9494 中央支社 〒615-0846 京都市右京区西京極大宮西10丁目29-62 TEL: 075-322-0110 FAX: 075-322-0770 E-Mail: info@office-yamato.net
 寺社の電気、空調、防犯、防災設備 有限会社 土橋電気設備 〒606-0953 京都市左京区松ヶ崎海尻町4番地4 まちやまちや 105号 TEL 075-703-6331 FAX 075-703-6332	こころをつたえる 和文具 和雑貨 株式会社 表現社 〒602-0861 京都市上京区新烏丸通り荒神口南入る TEL: 075-222-1345 / FAX: 075-222-1354 http://www.hyogensha.net/
お茶会・式典・作品展 など イベントのお手伝いは弊社へ  イベント設営・レンタルの京老舗 てらおかしものてん 有限会社 テラオ貸物店 〒602-0029 京都市上京区室町通上立売上る室町頭町279番地の5 TEL 075-414-1464 FAX 075-414-1474 E-mail: office@terao-rental.com URL: http://www.terao-rental.com	式典写真、風景写真など あらゆるニーズにおこたえします！ 柴田明蘭 写真事務所 (公益財団法人) JPS 日本写真家協会 会員 ☎ 090-8387-7735 FAX 075-311-9369 〒615-0057 京都市右京区西院東長町24 シェルブリュール 403

大本山相国寺御用達 社寺建築 (株)北村誠工務店 〒603-8225 京都市北区紫野南船岡東町45 電話京都 (075) 441-0563 FAX京都 (075) 441-0571	〒604-8356 京都市中京区大宮通錦上ル 電話〇七五八二一三八七二 
大本山相国寺御用達 庭園 設計・施工 樋口造園株式会社 〒602-8341 京・上京区七本松通中立売下ル三軒町77 電話 (075) 462-1385 FAX (075) 464-6120	大本山相国寺御用達 御法衣・仏具 (株)後藤利法衣店 〒604-8273 京都市中京区西洞院通三条上ル 電話 (075) 221-4587 FAX (075) 223-0094 フリーダイヤル (0120) 014587
大本山相国寺御用達 精進料理 矢尾 治 〒600-8486 京都市下京区高辻堀川町358 電話 (075) 841-2144 FAX (075) 841-2110 http://kyoto-shoujinryouri-yaoji.homepage.jp	文化財堂宇修復保存 大本山相国寺御用達 社寺建築 設計・施工 数寄屋建築  澤甚株式会社 澤野工務店 本社 〒605-0069 京都市東山区東大路通知恩院前上ル2筋目東入 TEL (075) 561-5394 (代) FAX (075) 533-3775 山科事務所・工房 〒607-8126 京都市山科区大塚元屋敷町62 TEL (075) 541-1257 (F)
貴重な御法衣の御用は 大本山相国寺御用達 後藤新助法衣仏具店 〒616-8041 京都市右京区花園寺ノ前町30番地 電話(代表) (075) 462-3915番 ファクシミリ (075) 462-3616番 URL http://www.rinzai.jp E-mail: rinzai@rmail.plala.or.jp	大僧 1 師範 大本山相国寺御用達 安田念珠店 T601 3072  京都市上京区室町通上立売上る室町頭町279番地の5 TEL 075-414-1464 FAX 075-414-1474 http://www.gesuden-tenjudo.com



大本山相国寺御用達
寺社庭園・町屋庭園・露地庭
作庭 管理

植昭 長岡造園

〒616-8305 京都市右京区嵯峨広沢御所ノ内町13-3
電話 (075) 872-0005 FAX (075) 872-0004

金沢本社社屋 東京本社社屋

なくてはならない印刷会社を目指して—

ヨシダ印刷グループは、業務効率化と情報伝達に関する「なくてはならない」
製品・サービスを提供することで、お客様の発展と新しい社会の実現に貢献します。

ヨシダ印刷株式会社 関西支店

〒532-0011 大阪市淀川区西中島5-8-3 新大阪サンアールビル北館10F
TEL.06-6305-7888 FAX.06-6305-7300 URL <https://www.yoshida-p.jp/> 【営業所・工場】 富山・金沢本社・江東潮見
〔金沢本社〕〒921-8546 石川県金沢市御影町19-1 TEL.076-241-2141(代) 〔東京本社〕〒130-0014 東京都墨田区亀沢3-20-14 TEL.03-3626-1301(代)

情報セキュリティマネジメントシステム
ISO27001:2013

日本水なし印刷協会
認可工場 (環境安全対策)

JAPAN
COLOR
標準印刷認証
ヨシダ印刷株式会社
金沢本社工場
江東潮見工場

雅料 温故知新を織る……

株式会社 龍村美術織物
URL <http://www.tatsumura.co.jp/>

関西店 〒615-0022 京都市右京区西院平町25
ライフプラザ西大路四条2階
TEL (075) 325-5580 FAX (075) 325-5606

関東店 〒104-0031 東京都中央区京橋2-8-1
八重洲中央ビル5階
TEL (03) 3562-1212 FAX (03) 3562-1230

大本山相国寺御用達
京仏具・仏壇

株式会社 **佛光堂**

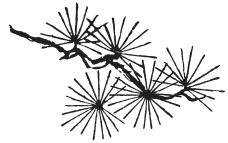
〒600-8033
京都市下京区寺町通仏光寺下る
(四条寺町、南へ200M、西側)
TEL(075) 351-4092 FAX(075) 351-7231

大本山相国寺御用達
京都市指定
有限会社 **丸水設備工業**

●上下水道衛生設備 ●ボーリング井戸 ●消火栓設備
●庭園池の濾過設備 ●お墓の雨水処理 ●設計施工

〒603-8354 京都市北区等持院西町32
TEL (075) 462-8888(代) FAX (075) 462-8998

www.shoyeido.co.jp



香



大本山相国寺御用達

香老舗 松榮堂

京都本社／京都市中京区烏丸通二条上ル東側 TEL 075-212-5590 FAX 075-212-5595
東京支店／東京都中央区日本橋人形町 2-12-2 TEL 03-3664-2307 FAX 03-3639-4969
札幌支店／札幌市中央区南 8 条西 12 丁目 3-6 TEL 011-561-2307 FAX 011-563-3502

京都本店 産寧坂店 京都駅 薫々 嵐山香郷 大阪本町店 銀座店 人形町店 青山香房 札幌店

なが——い、おつきあい。



貯める、運用する、借り入れる、積み立てる、備える、管理する…

京都銀行は、人生のさまざまなシーンで皆様を応援します。お気軽にご相談ください。

飾らない銀行

 京都銀行

ANA
CROWNE PLAZA
KYOTO



世界の歴史都市、
京都の中央に位置し、
世界文化遺産「二条城」の前に佇む
ANA クラウンプラザホテル京都。

ANAクラウンプラザホテル京都

〒604-0055 京都市中京区堀川通二条城前
Tel 075-231-1155
www.anacpkyoto.com

JTB

感動のそばに、いつも。

JTB京都中央支店

〒600-8421 京都市下京区横小路通烏丸西入直待番町 167 AYA 四条烏丸ビル 2F
TEL:075(284)0173 FAX:075(284)0153
(営業時間 9:30~17:30 / 土・日・祝日休業)

大本山相国寺御用達

文化財保存修理・文化財デジタル複製・文化財 IPM 調査・文化財調査
一般表具・絵画企画製作・漆/金箔施工・宗紋襖紙/御殿引手発売元

京表具 ^{こう} 法 ^{えつ} 悦 ^{あん} 庵

古文化財保存修理研究所 有限会社 矢口浩悦庵

本社・工房 〒602-8025 京都市上京区衣棚通り丸太町上る今薬屋町 318 番地
TEL(075)254-6021 (代) / FAX(075)254-6022
東京営業所 TEL(042)442-0177 oversea@koetsuan.com

www.koetsuan.com ✉ E-mai:art@koetsuan.com

毎月 15 日・23 日は

三菱UFJ信託銀行の個別相談会 無料
予約制

毎月 15 日は 遺言の日
毎月 23 日は 不動産の日

三菱UFJ信託銀行 京都支店

お申込みはこちら

TEL. 075-211-7168

電話受付/平日9:00~17:00(土・日・祝日等を除く)
京都府京都市下京区四条通高倉東入立売中之町85

抹茶

全国並びに関西茶品評会 第一位
自園茶 農林水産大臣賞 30 回受賞

有馬頼底管長御好

御濃茶

まんねのみどり
萬年乃翠

御薄茶

じょうこう
常光



大本山相国寺御用達

宇治 久小山園

京都府宇治市小倉町寺内八六番地
お問い合わせ(0774)200909
●西洞院店 茶房「元庵」水曜休祝営業
京都市中京区西洞院通御池下ル
電話(075)2230909
●ジェイアール京都伊勢丹店地下一階
●京都高島屋店地下一階和菓子売場
【お取り扱い】全国有名茶店・茶道具店
www.marukyu-koyamaen.co.jp

御法衣・御袈裟・御水引・戸帳・打敷

華蔓・御晋山式用品一式・稚児装束

大本山 相国寺御用達

橘兵 草木兵助商店

〒604-0024 京都市中京区衣ノ棚通御池上ル西側
電話 (075) 221-0934 番 振替京都 01090-4-3476

相国寺御用達 北山金閣寺御用達 東山銀閣寺御用達



享保十一年創業 清酒「五紋神蔵」醸造元

松井酒造株式会社

京都市左京区吉田河原町1の6

電話 075 (771) 0246

大切な文化財を始め、建物の安全と安心の為に努力しています

電気設備工事・消防設備工事

A DACHI 足立電気工業株式会社

〒601-8045

京都市南区東九条西明田町34-21

TEL 075-681-4461 FAX 075-681-9767

E-mail: adachi-d@guitar.ocn.ne.jp

相国寺
東京別院
施工

www.mizusawa-inc.co.jp

水澤工務店 東京都江東区木場5丁目6番地1号 TEL 03-3641-7111



皆さまのお役に立てる、

コインパーキング。

着実に、一步一步。

キョウテク株式会社

本社

TEL **075-365-8000** FAX **075-365-8080**

〒600-8172 京都市下京区下平野町483番地1

● 編集後記 ●

◇暑中お見舞い申し上げます。相国会会員の皆様をはじめ本派各寺院、関係各位におかれましては、ご健勝のことと存じます。今夏も『円明』第112号が出来上がりましたので、どうぞご覧ください。

◇代も平成から令和に移りました。『円明』は、昭和38年8月1日創刊以来、平成を経て今号に至っております。半世紀を超えて続いている第四教区若狭相国会による少年研修会や、相国会本部研修会、六十年振りの復活で平成16年より同27年まで続いた管長「御親教」など本誌に掲載された内容は、本山相国寺と本派各寺院、相国会会員、檀信徒の皆様との繋がり歴史でもあります。これからも一層の誌面充実を目指したいと存じます

◇最近各教区におきましても、それぞれに地域寺院の歴史研究や坐禅会、勉強会等活発な活動が行われているようです。これからも各寺院、各教区相国会の皆様からの寄稿を編集部の方までご遠慮なく投稿をお願いいたします。

◇今号も小林老大師はじめ本派ご住職様、御出入りの業者様など各方面の方々よりご寄稿、写真提供を頂きました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

◇令和最初のお盆も、これまでと変わらずご先祖様を気持ちよく迎えたいものです。年長者から小さい子供まで出来るだけ皆で一緒になってお墓の掃除ご供養をすることは大事です。一掃除二信心、掃除は信心の表れ、掃除することがすでに信心です。小さいお子さんの仏心の芽生えにつながります。

◇最後に、昨年9月に京阪神は台風による甚大な被害を受けました。温暖化が原因とすれば本年以降毎年全国のいずれかの地域に来ると覚悟して、備えなければなりません。もう想定外ではすまされませんし、特に屋台骨の大きい寺院は、被害も当然大きくなります。大いに留意して頂きたいと存じます。そして、異常高温や多雨などによる甚大な被害が、少しでもなくなることを祈るばかりです。残暑厳しい折、どうぞ御自愛ください。

(矢野謙堂 記)

えん みょう
円明 令和元年(2019)夏号(第112号)
令和元年(2019)8月1日発行(年2回)

編集/相国寺派宗務本所 教学部

発行所/大本山相国寺・相国会本部

〒602-0898 京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町701 TEL075-231-0301 FAX075-212-3591
URL <http://www.shokoku-ji.jp> E-mail kyogaku@shokoku-ji.jp (教学部)

制作・印刷/ヨシダ印刷株式会社 カット/BUN



『円明』誌は、環境にやさしい「水なし印刷」「Non-VOCインキ」で印刷しています。

人と自然をつなぐ、伝統と革新をつなぐ。

想いをかたちに 未来へつなぐ

TAKENAKA

竹中大工道具館(兵庫県神戸市)
設計施工: 竹中工務店

株式会社 竹中工務店

DNP

歴史を未来につなぐ技術。

私たちは、これまで培ってきた印刷技術と情報技術を生かし、
かけがえのない文化遺産の保存と継承に貢献しています。

未来のあたりまえをつくる。

日本印刷株式会社

相国寺 秋の特別拝観

京都今出川 鳴き龍の寺

令和元年 9月25日(水)～12月15日(日)

※10月18日(金)～21日(月)は、開山忌法要のため拝観を休止いたします。
 ※10月3日(木)、4日(金)、5日(土)、12月8日(日)は法要・行事のため
 拝観時間に一部変更があります。

拝観時間：午前10時～午後4時 拝観場所：法堂・方丈・開山堂
 はつとう ほうじょう かいさんどう

拝観料：一般・大学生 800円／65才以上・中高生 700円

※団体割引有り ※行事・法要のため予告なく拝観休止または拝観場所・拝観時間を変更することがあります。



法堂内部「蟠龍図」



開山堂の紅葉

現在の展観

ことほ

「言祝ぎの美——寺宝でつづる吉祥」



Jōtenkaku Museum

主催／相国寺承天閣美術館、日本経済新聞社 後援／一般財団法人 萬年會 協力／MBS

Ⅱ期 2019年7月6日(土)～9月16日(月・祝)

ことほぎとは、言葉で祝うことを意味します。

言葉には現実をあやつる力があるという「言霊」思想が古来よりあり、日本文化を彩ってきました。

さらに、人生の節目の祝いは、儀式となつて様々な工芸品を生み出しました。

新たな天皇の御代をことほぐこの年、相国寺承天閣美術館では、皇室ゆかりの宝物をとりまぜ、相国寺、金閣、銀閣の名品で祝いの展示をいたします。



次期展覧予定

「茶の湯——禅と数寄」

Ⅰ期 2019年10月5日(土)～12月22日(日)
 Ⅱ期 2020年1月11日(土)～3月29日(日)

相国寺承天閣美術館事務局

後小松天皇宸翰 叢林秘事

一卷 紙本墨書

室町時代 十四～十五世紀

相国寺蔵

江戸時代の相国寺が所蔵していた宝物の目録、『本山塔頭什物記』（寛政十一年（一七九九）のなかで、什物筆頭に挙げられた寺宝が現在も相国寺に伝来する。それが本品である。

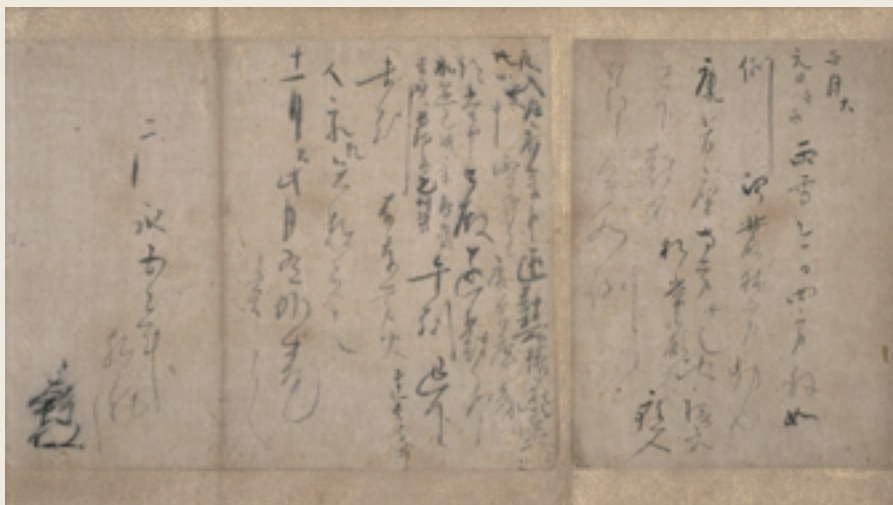
相国寺創建時の天皇、後小松天皇（一三七七～一四三三）の日記の断簡が十三枚、貼り合わせられて卷子装となっている。十三枚の本紙のうち、二紙から十二紙までは、応永五年（一三九八）、四年（一三九七）、七年（一四〇〇）の日記であり、五紙目と八紙目に「幹仁」と後小松天皇の名が記されている。

その内容は、「叢林秘事」とあるように、叢林つまり中世五山の禅寺における重要な事柄が記されている。後小松天皇の日記の中から、禅僧に関する記述部分が抜き出され、国師が太政大臣に相当する、といった記述が並ぶ。

最後に貼られた十三紙目は、応永十年（一四〇三）に記されたもので、白川資忠王（一二三二～一四四〇）がこの書は後小松天皇の勅筆であると記している。

江戸時代になると、本品を臨書した副本（花山院定誠写本 元禄七年・一六七二 相国寺蔵）も作られ、幾度も書写された。京都所司代の内覧も複数回とりおこなわれるなど、相国寺を代表する宝物として重視されていたのである。現在世に『後小松院宸記』として知られる古典籍は、本品やその写本を江戸時代に書写したと確認できるものが複数あり、その影響力がうかがわれる。

作品解説／承天閣美術館 学芸員 本多潤子



とわ
永遠の安らぎ —石のカウンセラー—

株式会社 石 杖 都 みやこ

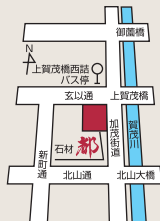


代表 坪田 忠男

年中無休 営業時間／AM8:30～PM6:00 (日曜日PM5:00まで)

本 社：〒603-8103 京都市北区小山北玄以町 24 番地 （上賀茂橋西詰バス停前） 電話(075)491-4114(代)
工 場：京都市北区上賀茂神山 389 番 24 （洛北病院バス停前） 電話(075)702-2440
夜 間：京都市左京区岩倉南池田町 117 電話(075)702-8814

御一報次第、遠近を問わず参上いたします。



心のすがた

撮影◎
教学部



皇風永扇 佛目増輝

こうふう とうわ
皇風は永に扇に、
ぶつめ ぞうま
佛目は輝を増す
法堂本尊釈迦如来と今上牌（今上天皇の徳を讃え安泰を祈る牌）